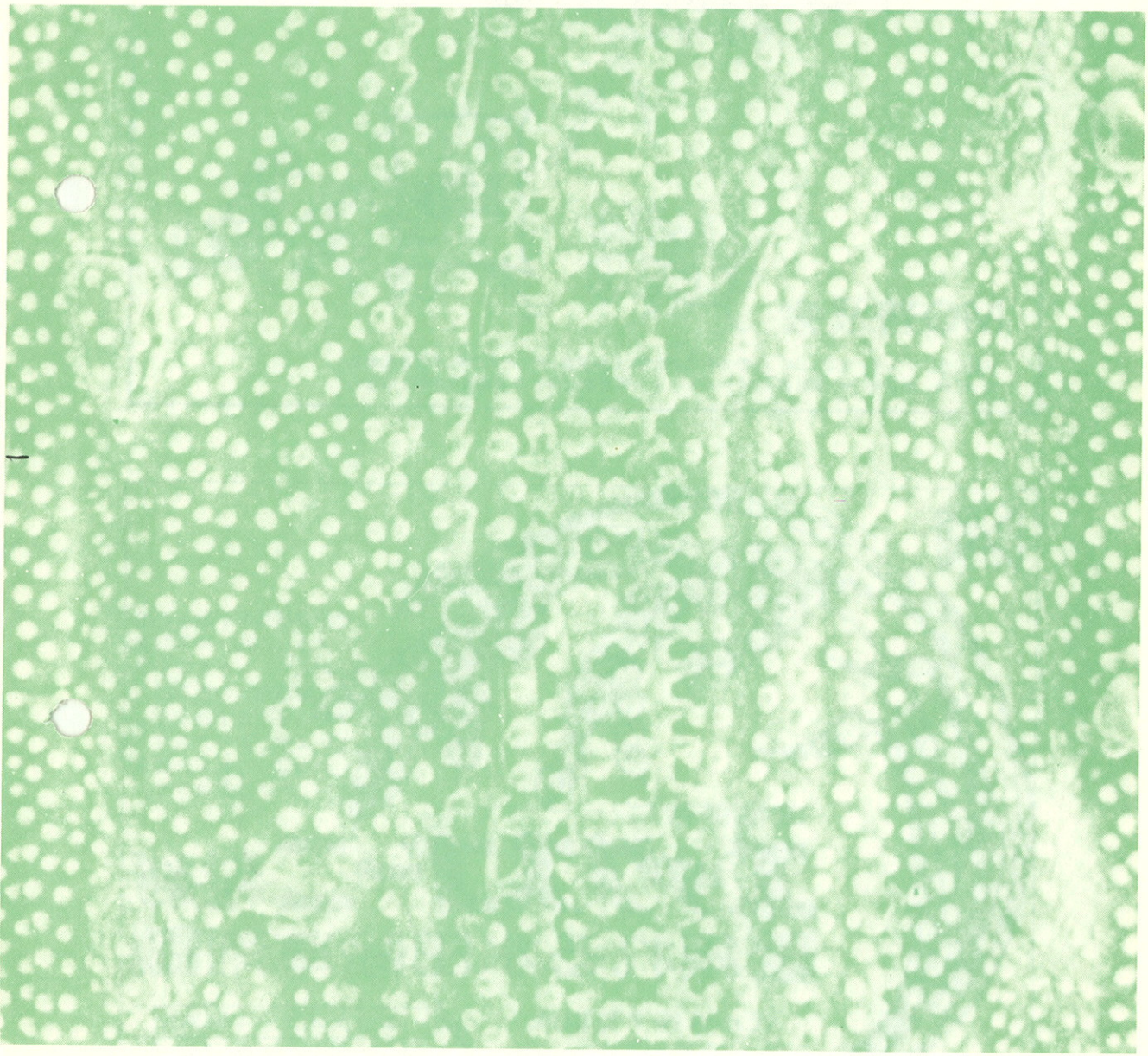
植調

第10巻第11号



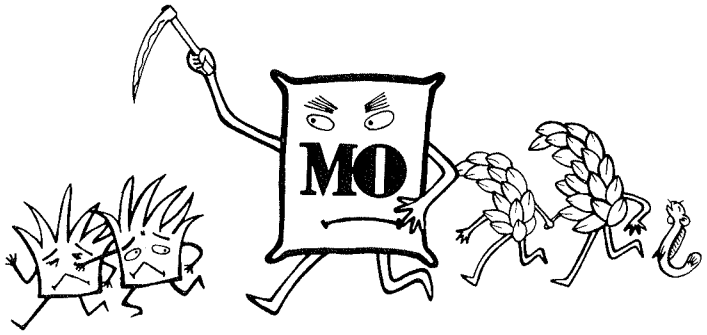
財団法人　日本植物調節剤研究協会編

安全でよく効く！

——水田除草剤——

MO粒剤-9

（CNP除草剤）



MO普及会

取扱会社　クミアイ化学、三共、北興化学、八洲化学、日本農薬、サンケイ化学、三井東圧農薬
事務局　東京都千代田区霞が関３－２－５（霞が関ビル）三井東圧化学株式会社内

稚苗移植栽培が急速に増加するにつれ、抑草期間が長く、しかも安全な除草剤への要求は、ますます強くなっています。エックスゴーニ粒剤は、これらの要求にピッタリの除草剤です。

田植前後に——

エックスゴーニ粒剤

頼れる水田除草剤

代かき後７日以内
にお使いください。

資料請求券
植調
エックスゴーニ

エックスゴーニ協議会

石原産業株式会社
〒550　大阪市西区江戸堀上通１-11-11

日本農薬株式会社
〒103 東京都中央区日本橋１-２-５

安全性への選択

所謂「自然食品」や「生薬」が静かなブームを呼び，いささか行き過ぎの声さえ聞かれる程となったが，化学合成品に対する現代人の意識が不信と不安に変わりつゝある証であろうか。

天然物代替の化学製品普及による豊かさを享受しながら，一方において「天然自然」のレッテルに憧がれるのも一概に身勝手とのみ責められぬ人間の心情なのであろう。

化学製品の安全性については，我々日本人持前の性急さ，潔ぺき性から結論を急ぐ傾向無きにしも非ず，また分析機器の発達に伴う微量検出技術の進歩も，こうした傾向と結びついて徒らに化学製品の安全性に対する不安感を助長しているといった事例もあるやに聞いている。早い話，農薬にした処が，農業の生産財として専ら自然環境への直接投入，散布の形をとるが故に一般国民へのイメージは「環境汚染」へと短絡しがちなのかも知れない。

安全性に対する冷静な科学的判断の必要を説くことは大切だが，我々化学工業に携わる者としては，有限な環境容量の中での消費の絶対量増加がもたらす不安や現実の問題解決に，我々が持てる技術の粋を集めて，後手に廻らぬ対策努力を続ける必要があろう。

因みに我国の全耕地面積は，現在約550万haというが，過去10年間に50万haも減少している。これに対する農薬の全国使用量は同じ10年間に大凡60％も増加している勘定である。

我国では既に残留性農薬の規制が実施されて久しいが，更に竿頭一歩を進めて，速分解非残留型農薬の開発志向が強いのも，こうした背景と無縁ではない。

目　　次
（第１０巻第１１号）

昭和５１年度春夏作野菜・花き関係除草剤・生育調節剤試験成績概要(2)……2
＜農林省野菜試験場　西　貞夫＞
Ⅳ．野菜対象生育調節剤……2
Ⅴ．野菜対象生育調節資材……7
Ⅵ．花き対象生育調節剤……8
Ⅶ．前回末検討生育調節剤……11
昭和51年度水稲作関係除草剤試験成績概要……12
昭和51年度畑作関係除草剤試験成績概要……31
昭和51年度水稲・畑作関係生育調節剤試験成績概要……35
＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞
水田の多年生雑草発生面積一覧表……39
植調協会だより……40

そもそも必要食糧の60％を海外に依存している我国の冷厳な現実を受け止めるならば，国民は一も二もなく「無農薬」のＣＭにとびつく前に，まず農薬使用の経済性と，同時に安全性向上のコストに思いを致し，食糧の安定供給確保のためには，これからの農薬は如何にあるべきかを真剣に考えるのが筋道であろう。

安全性の確保が生産者の務めであるとすれば，そのコストが受益者たる国民の選択と負担にかかっていることも当然であろう。

例えば，速分解・非残留型農薬の開発が，消費者たる国民の安全性志向に応えるものであれば，国民の選択こそ此の様な農薬の開発，普及促進の鍵と言えるのではなかろうか。

（日本化薬株式会社農薬事業部長　鳥越　毅）

昭和51年度春夏作野菜・花き関係 除草剤生育調節剤試験成績概要(2)

農林省野菜試験場　西　貞夫

Ⅳ. 野菜対象生育調節剤

1. 野菜一般

(1) **CaO_2 粒剤**（カルパー研究会）：継続－試験年次不足。

過酸化カルシゥム54％を含む粒剤で，昭和50年春夏作でレンコンに生育促進と増収効果ありとして試験された。本剤は，根（群）の活力を維持増進する働きをもつので，間接的に強勢な生育とその継続とが期待され，結果的に増収に結びつくというのであり，イネでは実用化になっている。今回はレンコンと並んで，対象作物拡大の目的で，ピーマンに対する効果が検討された。試験を実施したのは野菜試（津）で，露地早熟栽培での，1～5g定植時植穴混層処理が行われた。その結果，根重には区間に有意差を認めなかったが，5g区で細根の発生がややよくなり，収穫開始後1か月の収量も10％強増収となった。試験年次不足につき試験継続となった。

2. レタス

(1) **JG－01水溶剤**（日本合成ゴム）：継続－試験年次不足。

シイタケの菌糸体抽出液で，多糖類・タンパク質・アミノ酸・核酸・ビタミン・無機塩などの混合物で，昭和50年春夏作から試験されている。機作は明らかでないが，動植物の生理活性を高め，増収効果をもつと申請された。試験を実施したのは，埼玉園試・長野野菜花き試・静岡農試遠州園芸分場で，露地移植栽培の定植前2～7日，500倍液1～5回葉面散布処理が行われた。その結果，埼玉で処理回数による差はないが，処理区の地上部重が6～8％増，長野では一定の傾向なし，静岡遠州では収量・調製重が散布回数に応じて2～8％増収したが有意差なし，という成績であった。試験年次不足につき継続となった。さらに作型・処理方法などについて検討が必要と思われるが，それには作用機作の解明が前提となろう。

(2) **KC－481 液剤**（科研化学）：継続 －効果不足につき（処理量・処理方法について）。

ニコチン酸アミド10％を含有する液剤で，昭和50年春夏作でも，レタス・ピーマン・キュウリで試験された。生育促進効果が，生産安定・増収に結びつくとして，前項と同じ3場所が，0.1～10ppm液の3l/m^2．苗床移植時および本畑定植時の反復土壌処理を行った。その結果，埼玉では各区とも生育促進を認め，草丈・地上部重とも重量増，長野では1.0・10.0ppm区で平均球重増，静岡遠州では定植時の葉長が増していたが，最終の収量には差なし，との成績であった。総合的判断としては，増収に結びつく効果不十分で，処理量・処理方法の改善を目指す意味で継続となったが，本報告の冒頭に述べた様な判断 ― 生育促進の有無のみに注目する－

をすれば，実用性の有無は別として，有効といっても良い結果であろう。

3. セ ル リ ー

(1) **JG－01 水溶剤**（日本合成ゴム）：継続－試験年次不足．

前出薬剤で，500倍液のアール当り25 l 茎葉散布が，定植10～15日後から3～5回行われた。今回の成績は東京農試のもので，千葉暖地園試と兵庫農総農試宝塚分場が実施中である。その結果，5回散布でも無処理区と生育の差を認めず，ジベレリン混用区では増進効果が認められたが，ジベレリン50 ppm単用区との比較から，ジョーゲンの効果とは認めがたいとされた。他場所の成績は未着であるが，試験年次不足で継続の判定が与えられた。

4. タ マ ネ ギ

(1) **ヒドロキシイソキサゾール粉剤・液剤**（三共）：継続？－効果が明らかでないので．

昭和49年春夏作以来，タマネギ・イチゴの苗処理やカブでの土壌処理で，試験が行われてきた。今回は寒地における春まき移植栽培の，苗処理の効果が検討された。本剤はイネの立枯病防除剤としてひろく知られ，同時に根の呼吸活性を高め，苗素質の向上とその維持に有効とされてきたが，前回までの各種試験では，いずれも効果不足という判定であった。今回の試験は北海道農試と同中央農試が担当し，4％の粉剤と液剤を用い，前者は苗床のは種前土壌混和，後者は定植2週間前苗床かん注で処理した。その結果，北農試では苗の生育・定植後の生長に差を認めず，同中央では苗の生育促進（量）には有効であるが，定植後の活着・生育・収量には差を認めずという成績であった。前回紹介した生育調節剤の効果に関する論議とは，本剤に関係して行われたものであって，両場ともに申請が増収に関して行われているので，効果なしとの結論を与えたが，中央農試は苗の生育促進については有効とのデータを得ている。したがってもし，苗の生育と限定して判定を求められるならば可としたかも知れない。もっともこの場合は，北農試が無効としているので，実用化可の判定とはならないであろうが，もし本剤の処理によって苗の素質が変わるというのであれば，本畑でそれに合った栽培法がとられれば，増収するかも知れないという議論も成り立ちうるであろう。従って，最終段階まで処理効果が持ちこされる必要はないということにもなり，判定は実用的効果の程度と切り離して，‘苗の生育促進’という事実のみについて行われるべきであるという主張もありうるであろう。検討会では，この判定についての本質的の議論が長時間行われ，は種時や育苗中の処理効果を，収量で判定する必要はないという点で意見の一致をみた。しかし今回の申請では，増収効果と関係ありとされていたので，上記のような判定が与えられ，その限りでは中止の方向での評価であった。

(2) **IBA液剤**（塩野義製薬）：継続－試験年次不足．

インドール酪酸の0.4％液で，‘オキシベロン’の名で，多数の花き・花木のさし木発根促進剤として登録されているほか，チューリップでは切花品質の向上に有効とされている薬剤である。今回は寒地での試験で，乾腐病防止に用いられているベノミル剤との併用によって，活着促進と増収効果の有無が検討された。苗植付け時の1,000～1,500倍液による根部浸漬処理が，北海道農試と同上川農試で行われた。その結果，

ベノミル単用に比べてＩＢＡ混用は，乾腐病の発生を著しく低下させた。したがって実用化可能と思われたが，試験年次の関係で継続となった。本剤の混用で問題となったのは処理方法で，本来ベノミル剤は薬害の関係もあって，瞬間処理ともいう短時間処理が必要であるのに対し，ＩＢＡはより長時間の処理が求められることである。この点の結びつきが問題であったが，結論的には混用・瞬時処理で有効ということになった。

5. アスパラガス

(1) **ＫＰ－1100乳剤**（花王石鹸）：継続 ― 試験年次不足．

成分未公開の乳剤で，摘らい（蕾）効果をもつとして試験された。担当は北海道中央農試と同道南農試で，50～200倍液の，小花らい期または中花らい期およびその１週間～10日後の２回反復処理が行われた。その結果，中央農試では，薬害のある50倍を除いて顕著な摘らい効果あり，同道南では各濃度で茎葉のかっ変する薬害を認めたが，200倍では軽微であり，摘らい効果は50倍で十分，100～200倍ではやや不足としている。したがって，前者では実用性ありとの判定であったが，後者では薬害と効果の点で適当な濃度が定めにくいとの判断であった。検討会の時の議論としては，薬害が翌年の収量に及ぼす影響の程度が問題であり，それが明らかにできれば処理濃度が決定できるという考え方，処理の累積効果を考えるべきでないか，などがあった。

6. 食用ユリ

(1) **ＫＰ－1100乳剤**（花王石鹸）：継続 ― 試験年次不足．

前項薬剤で，出らい初～中期に行う50～100倍液の茎葉処理を，北海道中央農試が行った。結果は，50倍・中期の効果が顕著で，90％程度のつぼみが落ちたか，50倍・初期は効果が劣り，100倍区はさらに劣るということになった。従って実用化の可能性ありとの判断であったが，試験年次不足で，継続となった。

6. トマト

(1) **31603－Ｓ水和剤**（塩野義製薬）：実・継，実用化 ―〔加工用露地〕開花盛期 200～400ppm 5 l／a　全面茎葉散布処理，継続 ― 散布量について．

２－ベンズイミドイル－３－ヒドロキシ－１・４－ナフトキノンを9.0％含む水和剤で，昭和47年のトマト・ナスをはじめとして，着果促進剤としての効果試験が実施され，ハウス半促成トマトで実用化となっている。一方これとならんで，処理法によっては生育抑制的な働きがあり，それが着果の安定と結びつくことも知られたので，無支柱加工トマトについての試験が，過去２年行われてきた。その結果，年次によって効果の安定しないことがあって，処理時期を中心とする再検討が求められてきた。今回は，野菜試盛岡支場・茨城園試・長野中信地方試が試験を担当し，200～400ppm・5 l／a の開花盛期処理を実施した。盛岡では収穫ピーク時および全期収量の増加を認め，茨城では初期生育の抑制があるがその程度は軽く，着果促進・熟期促進・増収などの効果ありとした。長野中信でも，第２次側枝の生育抑制はあったが，収穫果数の増加と１果重の増大があり，処理が有用と判定している。したがって上記の判定となったが，処理量５l／a は必ずしも作業に便な量でなく，処理量の増加は，薬量の増を意味す

るので，薬害や生育抑制との関係をふまえて，さらに検討することになった。

(2) **CHMP液剤**（塩野義製薬）：継続 ―試験年次不足．

‘トライロン・トマト’の名で知られ，花房散布での着果増進剤として登録されている。今回の試験は，500 ～1,500 倍液を開花盛期に茎葉全面散布処理し，軽度の生育抑制による過繁茂防止，その結果としての着果安定を狙ったものである。試験は青森畑作園試，山形園試，茨城園試が担当し，青森では500 ～1,000 倍で所期の効果が認められたが，薬害の発生条件が心配，山形では濃度により薬害が生じたが所期の目的を達し，初期着果の増加と熟期の促進によるピークの調節が可能で実用性あり，茨城でもほぼ同様の結果を得て，500倍で実用化可とした。本剤の処理によって，生長点付近に変色とい縮が起こるが，その程度と環境条件との関係，実質的な薬害の有無について，未だ明らかでない点もあるので，試験年次の点も含めて，継続ということになった。

8. キュウリ

(1) **AHC－50G粉剤**（日本カーリット・長瀬産業）：実・継，実用化 ―〔キュウリ〕育苗用土８g／l 混和処理，継続―薬量および他作物への適用について．

ポリエチレンオキサイド50％を含む粉剤で，昭和48年秋冬作から，‘ハイドロジエル’という名で，果菜類の育苗あるいははち花のかん水回数（労力）節減を目的として試験されてきた。本剤は土壌の保水力を構造的に高める作用をもっものなので，生育調節作用はあるにしても本来的なものではなく，本剤自体が水を良く吸収するが不溶という性質を利用する結果なので，むしろ土壌改良（資）材として扱うべきであろうという論議もあったが，すでに試験を重ねているので，今回結論を出してしまうということで，検討された。今回は，栃木農試・埼玉園試・岐阜農試が，培土１l 当たり４～８ｇを混入し，かん水間隔を１～３日おきとして効果を比較した。その結果８ｇ混入することによって，３日間隔かん水も可能なことが確かめられた。ただしキュウリの生育については，積極的なプラスは認められず，保水効果についても８ｇが必ずしも最良という結論でもないので，他作物への利用も含めて試験の継続が求められた。

9. スイカ

(1) **IBA液剤**（塩野義製薬）：継続―試験年次不足．

前出の薬剤で，スイカについては人工交配による結実を確保する補助的効果が検討された。同様の目的をもつ薬剤は，すでに幾つか検討されているが，今回は青森農試・山形園試・茨城園試が，50～100倍液の開花当日人工交配後，果こう部塗布および散布処理を行った。その結果，青森と茨城では，50倍液の果こう部散布が塗布とともに有効と結論したが，山形では本栽培のような多整枝・多数着果の場合は，10％程度の着果率向上はあったものの，特別に有用とは認めがたいと判定した。全体としてみると，実用的効果は別として効果そのものは認められるようであったが，試験年次不足で継続となった。

10. 露地メロン

(1) **BA液剤**（クミアイ化学工業）：実・継，実用化 ―〔トンネルマルチ栽培〕開花当日又は翌日，0.75～1.0％液果こう塗布処理，継続―

処理時期・処理法・品種・作型および果実の品質について。

すでに実用化を得ているスイカと同様の目的をもつ処理で，北海道中央農試・秋田農試・山形園試砂丘分場，千葉農試・新潟園試・愛知農総試園研・香川農試が，0.75～1%液の開花前日～翌日，果こう部塗布処理を検討した。その結果，北海道中央は処理時期が低温であったことも影響して，処理効果なし，秋田は開花当日0.75～1.0%処理で有効で，果実の品質もあがる，山形砂丘は当日0.75%処理で実用化可，千葉は前日～翌日の0.75～1.0%処理で実用性あり，新潟と愛知は当日・翌日の0.75～1.0%で実用化可，香川は当日・翌日の0.75～1.0%で有望という判定であった。したがって上記のような判定を与えるとともに，各場所が問題とした点を集約して，細かい試験継続事項を加えた。

(2) **CaO_2 粒剤**（カルパー研究会）：継続－試験年次不足。

前出の薬剤で，移植後の初期生育安定と促進とを目的としている。株当たり1～5gの植穴土壌混和処理を，岐阜農試・佐賀農試が実施した結果，岐阜では処理株は節間がつまり，葉がやや小さくて，外観のしっかりしたものとなり，5g処理で所期の目的は達せられるとし，佐賀でも処理は果肉質・糖度・ネット発現などにプラスの効果ありとした。試験年次が不足なので試験継続と判定された。

(3) **CHMP液剤**（塩野義製薬）：継続 －試験年次不足。

前出の‘トライロン・トマト’で，花こう部塗布による着果促進と果実の品質向上に関する効果を，千葉農試砂地野菜研・新潟園試・香川農試三木分場が検討した。処理は50～750倍液を，開花の前日～翌日に，果こう塗布する方法で行われ，千葉砂地では本濃度では効果を認めず，5～30倍での処理が必要とし，新潟でも効果がなかったが，香川三木では250～750倍とも開花前日処理の効果高く，開花当日・翌日でも有望とした。この場合，品種は‘プリンス’と共通しているので，結果不一致の理由は明らかでなく，試験年次も不足なので，継続と判定された。

11. イ チ ゴ

(1) **ヒドロキシイソキサゾール粉剤**（三共）：継続？ － 明らかな効果が認められないので。

前出の‘タチガレン’で，イチゴの苗床に土壌混和して，苗質の向上と有効苗率の向上を図るものである。12.5～50g/m^2 混和処理を，栃木農試栃木分場・埼玉園試・岐阜農試が実施した。検討会の時点では，いずれも中間報告であったが，栃木農試栃木分場では苗の生育に効果を認めずとしたのに対して，埼玉と岐阜では葉の大きさ・地上部重・根重（埼玉），活着率・成苗率（岐阜）にプラスの効果を認めた。これらの苗を定植して目下栽培中であるが，途中の観察調査では，各場所とも無処理と差はないようだと報告した。そこで上記のような判定となったが，この件についても再度議論が行われて，苗の生育に有効という事実は，必ずしも現行の栽培法下で増収に結びつかなくても良いのではないかという提案があった。結論的にはこれが承認されることになったが，今回の申請は，‘増収効果’を含めたものであったので，その点については否定的という判定は改められなかった。

(2) **M－11 液剤**（日本モンテジソン）：継続 － 試験年次不足。

成分未公開の液剤で，成熟促進・増収の効果ありとして試験された。4～5ml/aを開花始期

から開花終りまで，10〜15日間隔で3回散布するという処理を，野菜試盛岡支場・北海道道南農試・岩手園試・埼玉園試が担当した。その結果，道南農試で低薬量処理が上物収量を増し，果実肥大に有効とした以外は，全場所が否定的な結論であった。特に果実数がましても，くず果や小果もますという点が問題で，積極的ではないが，試験年次不足で継続と判定された。

12. レンコン

(1) **CaO_2 粒剤**（カルパー研究会）：継続—栽培条件（施肥法）と効果発現について．

前出薬剤で，本剤の最も早くから行われている試験である。1〜2kgの土壌混層処理を行うのであるが，今回は山口農試と佐賀農試が担当した。山口では化学肥料と組み合わせ処理した場合に，増収効果を認め，有機質肥料との場合は無効としている。佐賀は中間成績であって，生育中期に生ずる黄変葉が処理で減ずることをみている。未だ最終的結論に至らないが，施肥法や土性と効果の発現が関係するようなので，この点に重点を置いて，さらに検討することになった。本剤の現地試験では，統一された処理法を定めることが，依然としてきわめて困難である。

V. 野菜対象生育調節資材

1. 野菜一般

(1) **SPマルチシート**（日産化学）：継続—試験年次不足．

‘サンプラック’と呼ばれる，易処理性被覆資材で，ポリエチレンと炭酸カルシゥムの混合物フィルムである。本シートは光崩壊性・易燃性であることによって，マルチなどに用いた場合のあと処理が容易であるとされている。同様の目的で開発された資材は，すでに3種類以上に及んでいる。フィルムの色には，白・黒2種類があって，気温の上昇効果は黒が黒ポリと同程度，白は透明ポリよりやや低かった。収量・根重は他の資材にまさっているが，目的である後処理をみると，地上部は容易に焼却できたが，地下部はそのままのこり，処理は黒ポリ同様困難であった。初年度試験なので，試験は継続されるが，いわゆる崩壊性フィルムには若干問題がある様に思われる。それは，崩壊の難易性とマルチとしての性能維持期間の関係にもあるが，‘処理の難易性’について，開発側と試験場所側との間に誤解があると思われる点がより問題である。相対的な意味では，地表に残ったフィルムは，崩壊してくれるほうが処理しやすいであろうが，焼却可能なポリエチレンの場合は，集収さえ可能であれば以後の処理はそれほど困難でなく，むしろ地中に残る部分を試験場側が問題として来たのに対し，開発側では，量的に大きい地表残存物に重点を置いてきたと思われる点である。現在のような形で地表部分が弱性化し，地下部分との連絡がと切れ，地下に切れ切れの破片として残るのであれば，その処理はむしろ黒ポリより厄介になる場合も考えられよう。認識の統一が必要であると思われる。

2. レタス

(1) **SPフィルム**（日産化学）：継続—試験年次不足．

前項のフィルムで，春まき露地のレタスでマルチの試験を実施した。担当は長野野菜花き試である。地温の経過は，地下5cmではサンプラックの黒が最も高く，白も農ポリにまさったが，地下10cmになると最高はサンプラックの黒で，

ついで農ポリであった。レタスの生育・収量に及ぼす影響は，他のマルチと差がなく，後処理はサンプラックが収穫時まで原型を保ったので，フィルム間に差がなかった。黒のサンプラックは，マルチとしては実用性があるが，本来の目的である崩壊性については疑問であった。試験年次不足で，試験を継続する。

(2) **MC－フィルム**（日本技研）：継続 ― 試験年次不足．

昭和50年の秋冬作から試験され，天然ラテックス10％を含むA液と，P.V.A 3％を含むB液とを使用前に混合して散布するものである。一応90日程度は，従来のマルチと同様の効果を持ち，その後光崩壊するとして申請されている。試験を担当したのは，野菜試盛岡支場・岩手園試高冷地分場・山梨農試岳麓分場で，今回はマルチ効果がきわめて少なく，持続期間も十分でないという成績であった。前年の噴口がつまるという苦情は，扇形ノズルの使用で解決されたが，材としての検討がなお必要であろう。試験年次不足で，試験継続となった。

3. ダイコン

(1) **ピボマルチフィルム**（ダイセル）：継続 ― 試験例数不足．

ポリイソブチレンオキサイドを素材とする，光崩壊性フィルムで，この種フィルムの創始といってよい。昭和50年春夏作から試験されており，作物の生育期間に崩壊時期を合わせたフィルム4種類が開発されている。茨城園試と岐阜農試とが，試験を担当したが，茨城ではマルチとしての効果は透明フィルムと同様，収穫時まで崩壊することなく残り，地下に入った部分の処理は，むしろはん雑としている。岐阜でも収量は透明ポリとほぼ同様，崩壊性はD－Sが早すぎ，D－Lはおそすぎという結果で，予期したようなメリットはなかったとしている。このフィルムの崩壊は，受光した紫外線の総量に支配されるということなので，天候による不同は免かれがたいうえ，地中残存物の処理についての認識が十分でなかったと思われるので，さらに検討が必要であろう。試験年次は2年であるが，例数が不足するので，継続と判定された。

4. スイートコーン

(1) **ピボマルチフィルム**（ダイセル）：継続 ― 試験例数不足．

前項のフィルムで，同様目的のもとに，茨城園試と岐阜農試とが試験を実施した。マルチとしての性能は一般透明マルチと同様であったが，崩壊性および地中残存物の整理については，ダイコンの場合と同様の問題があり，この点の認識を統一する必要があると思われた。ダイコンと同様の理由で，試験継続と判定された。

Ⅵ. 花き対象生育調節剤

1. 球根類一般

(1) **エスレル＋ジベレリン液剤**（2,4－D協議会・協和醗酵工業）：継続―試験年次不足．

周知の両薬剤を用い，前者を10.0％・後者を0.5％含む液剤で球根を処理して，休眠打破ならびに生育促進の効果をあげようとするものである。今回は埼玉園試が行ったテッポウユリとフリージァの結果が報告されたが，千葉暖地園試と福岡園試とでも試験実施中である。テッポウユリでは，休眠打破も生育促進も効果なく，フリージァでもむしろ抑制的に作用して，効果は認められなかった。両試験場の成績をまって，試験の継否をきめる。

2. 草 花 類

(1) **AHC－50G 粒剤**（日本カーリット）：継続 ― 試験年次不足．

前出薬剤で，かん水回数・労力の節減が目的である。‘剤’というより‘材’に属するというものであるが，東京農試がシクラメン，奈良農試がポットマムで試験し，ほかに千葉農試がカルセルラリアで試験実施中である。土壌 l 当り8gを混和するが，東京では本剤（ハイドロジェル）処理によって保水力は増すが，蒸散も多くなるので，次かん水前には無処理と同様になり，特に効用は認めずとし，奈良でもほぼ同様の傾向であった。はち花の場合は，かん水技術が生産のかなめとなっており，その意味では，かん水の省力・画一化が望ましいといえるが，他の資材のむらを除くことのほうが先決という議論もあり，特に用土の規格化が問題という指摘もあった。全成績の提出をまって，試験の継否をきめることとなった。

3. キ ク（ポットマム）

(1) **ALDEN 液剤**（日本ロシュリサーチセンター）：継続 ― 試験年次不足．

成分未公開5％の液剤で，ポットマムのわい化剤としての利用を目的としている。0.2～0.4％液を200～350ml/m^2，ポットマムの新芽長2～3cm時とその約10日後の2回反復処理するもので，野菜試久留米支場・東京農試・神奈川園試・愛知農総試園研・福岡園試が試験を実施した。その結果，各場所とも処理濃度・回数に応じて顕著な抑制効果を認め，開花がやや遅れるが，B－ナインに比べても，花弁の黄花のない点で，まさるとも劣らないとしている。今後は品種ごとの適正処理法を確立するという方向で，試験が継続されることになった。

(2) **EL－531液剤**（武田薬品工業）：実用化 ― はち上げ2週間後〔短日処理開始時〕5号ばち当り1.0 ml茎葉散布又は土壌かん注処理．

アンシミドール（商品名スリトーン）の名で昭和47年来試験されている‘わい化剤’で，キク・ユリ・ポインセチア・チューリップの各種品種で実用化となっている。今回はキクのうち，‘福助作り’での実用性に関する試験で，‘0.5～2.0 ml／5号ばち’を土壌かん注又は茎葉散布する処理を，愛知農総試園研・鳥取野菜試・香川農試が担当した。その結果，わい化効果は従来の試験どおりで，愛知では1.0 mlの茎葉散布か土壌処理で実用性あり，鳥取でも同様であるが処理量の多い時は茎葉処理のほうが効果大，香川では効果十分であるが，開花期がやや遅れるとの成績であった。したがって，上記のような判定が与えられた。

4. カーネーション

(1) **IBA液剤**（塩野義製薬）：実用化 ― 1 ml／12本，さし木前基部散布処理．

前出インドール酪酸の用途拡大試験で，0.4％原液の2倍液を，さし芽50本当り3～5 ml散布して，発根促進効果をみようとするものである。試験を実施したのは，静岡有用植物園・兵庫農総試農試・福岡園試で，各場所の間で供試した品種がすべて同じではないが，発根促進効果は顕著に認められ，処理法としては，浸漬処理よりも散布処理がまさるという結果となった。したがって上記の使用法での実用化が認められた。

5. 花 木 一 般

(1) **JG－01液剤**（日本合成ゴム）：継続―試験結果不一致につき．

前出のシイタケ菌糸体抽出物で，花木類のさ

し木における発根促進の効果が検討された。試験を実施したのは，山形園試・山梨農試八ケ岳分場・兵庫農総農試で，10～500倍液の浸漬処理が行われた。その結果，発根促進は樹種によって有効なものはあったが総じて効果なく，オキシベロンとの併用で相乗効果があるやの成績が得られている。しかし，樹種によって効果はまちまちで，一定の傾向を認めがたいので，上記の様な判定として，さらに試験を継続することになった。

(2) **ＪＧ－０１液剤**(日本合成ゴム)：継続―試験年次不足．

前項薬剤で，花木類の生育促進と着花数の増大に及ぼす効果を検討した。試験は前項と同じ場所で行われ，50～500倍液を生育期間中３回全面散布したが，結果は樹種により，また処理時期によって一様でなく，総じて有効という評価とはいいがたいが，試験年次が不足なので，さらに対象をしぼって試験継続ということになった。

(3) **Ｎ－200.0 水和剤**（日研化学）：継続―試験結果樹種により不一致につき．

７－ベンジルアデノプリン1.0％含有の水和剤で，さし木の発根促進効果ありとして，昭和50年春夏作から試験されている。さし木前１～10 ppm液に24時間浸漬する処理を，埼玉園試・神奈川園試相模原分場で実施した。この種の試験では，対象とする樹種の選択・選定が，常に問題となっている。その理由は，場所によって手持ちの材料が同じでないこと，現行の試験制度では同一材料について最少２年間は検討することが求められていることなどである。花木類や草花類のように何百にも及ぶものを，次々にすべて処理するということは，事実上きわめて困難なことなので，試験を管理する側としては，常に悩まされるということになる。今回の試験でも埼玉では，ヒマラヤスギ・シイ・キンモクセイには無効，カマクラヒバでは10 ppmで発根数・根長に有効，１・５ppmでは発根数のみに有効，マサキ・サツキ・サンゴジュでは濃度によって，発根数・根の伸長が異なった反応を示す，という成績であった。神奈川相模でも同様に樹種による差があり，個々別々の取扱いが必要としている。試験の反復によって，やがては統一的な見解が得られることであろうが，現状では個々に‘実験’するほかないようである。

(4) **ATRINAL 液剤**（日本ロシュリサーチセンター）：**実・継，実用化―ツツジ類0.4~0.6（アザレアは0.2～0.3）％液（展着剤1.0％加用）250 ml／m²新しょう伸長初期散布，継続―翌年販売予定株の花芽形成と処理濃度及び処理時期について．**

生育抑制効果をもつ薬剤として，昭和50年春夏作から試験されている。花木・生垣などを処理することによって，せん定や整枝の労力を節減しようとする目的をもっている。生育抑制に合わせて，分枝数を増加する効果があるので，結果的には草姿を整えることにもなるという。この試験は，ツツジ類（ロードデンドロン属花木として申請）の分枝数増加，徒長防止を目的として実施されたもので，0.2～0.6％液250 ml／m²散布の処理を，野菜試久留米支場・福島園試いわき支場・神奈川園試相模原分場・三重農技センター・福岡園試・福岡農試畑作試験地・三重大学が実施した。処理の効果は，薬害の有無と新しょうの増加数の比較によって判定され，検討会の席上では，処理濃度が判然としないこと，処理時期が定まらない（事実は試験担当側の事情による不一致），試験年次不足などの理由で，申請どおりの効果は認められながら，試験継続の

判定が与えられた。その後異議申請があって，試験年次については2年目であること，処理濃度により効果のまちまちなのは，アザレアが他の種に比べて感受性が高く，それが結果を乱していること，処理時期については，各担当者の理解としては安全・確実なレンジは定まっていることなどが指摘された。そこで中央委員の間でデータを再検討し，各担当者と再度にわたって意見の交換を行った結果，上記のような判定の変更が行われた。この判定文にも若干問題点があり，‘ツツジ類’という用語の内容と限界，処理時期は‘開花盛期・開花終期・新しょう伸長開始期’などと試験結果からはわかれており，その後‘新しょう伸長初期’に統一されたが，どこまでを‘初期’とするか，処理濃度とツツジの種類の関係はこれですべてカバーしているのか，などの点については普及の段階においてさらに検討を要するものと考えられる。

6. 庭　木（庭園樹）

(1) ATRINAL 液剤（日本ロシュリサーチセンター）：継続 ― 試験年次不足．

本剤は，生育抑制とともに，摘果剤的な働きをもっているので，生垣・庭木用として用いる樹木の不用の着果を防止する目的で検討が行われた。対象はイヌツゲで，0.1～0.3％液の開花前茎葉散布が行われた。したがって，摘果剤といっても，摘らい（蕾）剤的効果ということができよう。試験を担当したのは，千葉農試と神奈川園試相模原分場であるが，千葉では対照のエスレル同様約90％の摘花率を示し，効果の発現は4～8週後（エスレルは1週間）とおそいが実用化に値するとしている。神奈川相模原でも開花前処理で，処理1か月後に落果という形で効果あり，実用化可としている。効果は十分認められるが，試験年次不足で継続と判定された。

7. 生垣用樹木

(1) ATRINAL 液剤（日本ロシュリサーチセンター）：継続 ―試験結果樹種により不一致につき．

前項薬剤のもつ，生育抑制効果を，生垣の整枝および徒長抑制に利用しようとするもので，野菜試久留米支場・福島園試いわき支場・栃木農試鹿沼分場・神奈川園試相模原分場・三重農技センター・福岡農試畑作試験地・三重大学が，0.1～0.4％の全面散布を行った。対象とした樹種が一様でないが，久留米が供試4種類中カイズカイブキ・アベリアで実用化可，サザンカで同有望，福島いわきがイボタノキ，栃木鹿沼がギンマサキで有望，神奈川相模は供試全樹種のイボタ・マサキ・ネズミモチ・シノブヒバで実用化可，福島畑作ではネズミモチで実用化可，という成績であった。ネズミモチのように共通したものもあるが，余りにも樹種に統一がないので，さらに対象をしぼって試験継続ということになった。

Ⅶ. 前回未検討生育調節剤

1. レ タ ス

(1) KC－481液剤（科研化学）：継続 ―試験年次不足．

ニコチン酸アミド10％含有の生育促進を目的とする薬剤で，前回埼玉園試で試験を実施していた成績である。(今年度は同場，長野野菜花き試，静岡農試遠州園芸分場で実施，効果不足で試験継続）0.1～10 ppm液を3 l／m^2，移植時と定植時に反復土壌処理したところ，1・10 ppm

区では葉色が濃くなり，生育も進んだ。しかし収穫時には差がなく，増収には結びつかなかった。短期間の効果を利用する場合には有効な場合も考えられるとしている。

2. タマネギ

(1) OK－301S 液剤（大塚化学薬品）：保留 ― 全成績の提出をまって判定．

タマネギの貯蔵中の発芽・腐敗を防止しようとする薬剤で，MH－30と類似の化合物である。前回，大阪農技センターと和歌山農試とが報告ずみで，今回は岐阜農試の成績が検討された（兵庫農総農試では試験実施中）。収穫1週間前に120倍液を，100l／10a散布したところ，10月5日の調査で，ほう芽率は無処理の28％に対し12％と低かった。しかし腐敗球は反対に12％に対し28％と高くなっていた。このような関係をさらに改善するため，さらに低濃度での処理を検討することを提案している。

（終）

昭和51年度水稲作関係除草剤試験成績概要

財団法人　日本植物調節剤研究協会技術部

昭和51年度水稲作関係除草剤の適用性試験成績中央検討会の結果を報告する。

1. 供試除草剤の動向

本年度の委託総点数は855点で，前年度とほぼ同一である。その内容は，成苗移植栽培対象除草剤は27点，稚苗移植栽培対象は778点であり，湛水直播栽培対象としては7点，乾田直播栽培対象が27点，畦畔雑草対象として16点が委託実施された。

2. 試験結果の概要

本年度供試薬剤の判定結果は，第1表の通りである。供試薬剤総数は113剤で，「実」の判定は15剤．「実および継」の判定は63剤で，これらは全体の69％に該当する。また「継」の判定は35剤で，「継？」，「中止」の判定薬剤は皆無であった。使用基準の作成されたものは，第2表に一覧表として掲載した。

第1表　昭和51年度　水稲作関係除草剤適用性試験結果判定表

	実	実および継	継
I－4　成苗 茎葉兼土壌処理		N－301粒， B－3015・S・MCPB粒．	CH－16－G粒．
I－5　成苗 適用時期拡大	S－28・AM．		

	実	実および継	継
II－1 稚苗土壌混和処理		RH－2915粒，RH－2915乳，B－3015乳，B－3015・K乳，G－315Ⓗ乳，G－315－PS，ブタクロール乳.	SL－041液，X－150液.
II－2 移植前後土壌処理	NK－049・S粒.	MC－79粒，SW－751粒，SW－751A粒，MTS－1粒，CM－202粒，CM－203粒，X－52水和，X－52・SK－23粒，ブタクロール(5.0%)粒，ブタクロール(2.5%)粒，CNP－18粒.	NK－50粒，NK－511粒，CG－113粒，CM－201粒，CM－204粒，X－150(3%)粒，X－150(5%)粒.
II－3 移植後土壌処理	モリネート・K粒，モリネート・K・PHC粒.	S－28粒，MSW－1粒，モリネート・M粒，MT－B－3015Ⓗ粒.	CG－113粒，NKB－1粒，YH－3粒，KH－191粒.
II－4 茎葉兼土壌処理	TH－63粒，モリネート・K・M粒.	S－28・S・M粒，CG－102粒，モリネート・S・M粒，KH－195粒，B－3015・S・MCPB粒，SMX粒.	NK－512粒，NK－513粒，TIH－76粒，YH－5粒，NTN－90・K・M粒，CH－16－G粒.
II－5 適用時期拡大	CG－102粒（ヒルムシロ），CG－102粒（年次変動），CG－102粒（ミズガヤツリ），TH－63粒（地域拡大），シメトリン・MCPB（3.5）粒，モリネート・S・M粒，シメトリン・MCPB（2.5）粒，BAS－3510水和.	S－28・AM粒，HOK－05B粒，HOK－06粒，CG－102粒（地域拡大），CG－102粒（ホタルイ），TH－63粒，NK－049粒，シメトリン・MCPB（2.5）粒，SMX粒（地域拡大），SMX粒，SMX(Na)粒，BAS－3510水和，BAS－3510(Na)液，モリネート・K・M粒，MT－101粒，TNY－53粒，B－3015・S・MCPB粒，N－301粒，MCP・BAS(Na)液，MCP・BASⓁ粒，MCC・M15粒，2・4－PA・BASⓁ粒，KH－191粒，モリネート・S・M粒，S－28・AM粒，BAS－3510(Na)粒，SC－7616粒，MCP－BAS水和.	NTN－90・K・M粒，TIH－76粒，(X－52)→ACN粒，CH－16－G粒，KH－198粒.
III－1 湛水直播	TNY－53粒.		NK－50粒.
III－2 乾田直播		G－315Ⓗ乳，BAS－3510(Na)液，S－28・P乳，B－3510・P粒，B－3015・P乳.	エス・MGF粒.
IV 畦畔		DCMU水和.	P－412水和，SL－501水和，SL－502水和，SL－501・P水和，SL－502・P水和，ポミカルDM水和.
V 耕起前			BAS－3510液，BAS－3510水和.

注）本年度は，「継？」，および「中止」と判定された薬剤はなかった.

第2表　昭和51年度水稲作関係実用化除草剤使用基準一覧表

薬剤名		処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
I－4. 成苗・茎葉兼土壌処理	N－301粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	+8～ノビエ2.5L.（但し，寒地は+15～ノビエ2.0L，寒冷地は+15～ノビエ2.5L.）ホタルイ：発生始～3L，ヘラオモダカ：発生始～3L，ミズガヤツリ：発生始～4L.	㊥ g／a 300～400	砂壌土～埴土（2cm／日以下）	1）低温時の使用は薬害発生の危険性があるので使用はさしひかえる.
			寒冷地，温暖地東部の普通期，温暖地東部の早期.	一年生雑草，マツバイ，ミズガヤツリ，ホタルイ.				
			温暖地西部の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ.				
			暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ.				
	B－3015・S・MCPB粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	+10～ノビエ3.0L.（但し，暖地は+10～ノビエ3.5L.）ホタルイ：発生始～3L，ウリカワ：発生盛～5L，ヘラオモダカ：発生始～4L. ミズガヤツリ：発生始～3L.	㊥ g／a 300～400	壌土～埴土（2cm／日以下）	1）低温時の使用は薬害発生の危険性があるので使用はさしひかえる. 2）シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる.
			寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ，ヘラオモダカ.				
			温暖地東部の普通期，早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.				
			温暖地西部の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ.				
			暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ.				
I－5. 成苗・適用時期拡大	S－28・AM粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ヘラオモダカ	田植前後土壌処理をした場合，+15～25（ノビエ1.5Lまで）. ウリカワ：発生盛～5L，ヘラオモダカ：発生始～3L.	㊥ g／a 300	砂壌土～埴土（2cm／日以下）	1）前処理剤との組み合せで使用する. 2）前処理剤としては，一年生雑草・マツバイ・ウリカワに有効な薬剤を使用すること. 3）低温時の使用は薬害発生の危険性があるので使用はさしひかえる.
			寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ，ヘラオモダカ.				
			温暖地東部の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ.				
II－1.	RH－2915粒	土壌混和	寒地，寒冷地および暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ，	荒代前又は荒代時（－2～－7）.	㊥ g／a 300～400（暖地250～300）	壌土～埴土（2cm／日以下）	1）混和深が浅いと薬害の恐れがあるのでロータリー混和とする. 2）混合はていねいにする.

	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II-1. 稚苗・土壌混和処理	RH-2915 粒(つづき)							3）落水移植厳守のこと.
	RH-2915 乳	土壌混和	暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ.	荒代前又は植代前（－2）.	㊐ ml/a 12.5（植代前）～ 15.0（荒代前）	壌土～埴土（2cm/日以下）	1）混和はていねいにする. 2）落水移植厳守のこと.
	B－3015 乳	土壌混和	寒冷地，温暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ.	植代直前直後，（－3～－1）. 〔但し，寒冷地は－4～－1.〕	㊐ ml/a 60～120	砂壌土～埴土.（2cm/日以下）	1）混和時の水深3～5cm. 2）混和深2～3cm.
			暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ.		㊐ ml/a 60～80		
			暖地の早期.	一年生雑草，マツバイ，ミズガヤツリ，ホタルイ.				
	B－3015・K 乳	土壌混和	寒冷地.	一年生雑草，マツバイ.	植代直前直後，（－6～－1）.	㊐ ml/a 50～75	砂壌土～埴土.（2cm/日以下）	1）混和時の水深は3～5cm. 2）混和深2～3cm.
			温暖地以西の普通期，早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ミズガヤツリ.				
	G－315㊐ 乳	土壌混和	全域の普通期，暖地の早期.	一年生雑草，マツバイ.	植代直前直後，（－3～－1）.	㊐ ml/a 30	砂壌土～埴土.（2cm/日以下）	1）混和時の水深は3～5cm. 2）混和深2～3cm. 3）吸着の悪い土壌（砂壌土，腐植含量の少ない土壌）では水の動きの少ない場合，薬害の発生の危険性があるのので十分注意をする. 4）寒地での腐植含量の多い地帯での使用は効果が安定しないのでさける.
	G－315・PS	土壌混和	寒冷地，温暖地東部，暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ.	植代直後（ニゴリ水時），（－6～－1）.	㊐2枚/a	砂壌土～埴土.（2cm/日以下）	1）強風のときは使用をさしひかえる. 2）10a以下均平水田で使用する. 3）水深3～5cm.
	ブタクロール 乳	土壌混和	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	植代直後，（－4～－3）.	㊐ ml/a 37～44	壌土～埴壌土.（1cm/日以下）	1）低気温および低水温時の使用は薬害の危険性があるので使用はひかえる.

	薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II－1.	ブタクロール乳（つづき）		寒冷地，温暖地東部の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ.		〔但し，寒地は44～50〕		2）ごく浅植えの場合薬害のおそれがある.
II－2. 稚苗・移植前後土壌処理	MC－79粒	土壌	寒地，寒冷地，温暖地の普通期，温暖地東部の早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	－3～＋8（ノビエ1ℓまで）. 〔但し，寒冷地は－7～＋8（ノビエ1.0L）.〕 ホタルイ・ヘラオモダカ：発生前～発生始.	㊐ g／a 300～400	砂壌土～埴土（2cm／日以下）	
			温暖地西部の早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ.				
			暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ.				
	SW－751粒	土壌	寒冷地，温暖地東部の普通期，早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.	－3～＋7（ノビエ1Lまで）. 〔但し，温暖地西部，ノビエ1.5L，暖地では2Lまで.〕 ウリカワ：発生前～2L，ホタルイ：発生前～発生始，ミズガヤ：発生前～発生始.	㊐ g／a 300～400	壌土～埴土（2cm／日以下）	
			温暖地西部以西の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ，ホタルイ.				
	SW－751・A粒	土壌	寒冷地，温暖地東部の早期，普通期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ミズガヤツリ，ウリカワ.	－3～＋7（ノビエ1Lまで）. 〔但し，温暖地西部，ノビエ1.5Lまで，暖地では2Lまで.〕	㊐ g／a 300～400	壌土～埴土（2cm／日以下）	
		土壌	温暖地西部以西の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ，ホタルイ.	ウリカワ：発生前～2L，ホタルイ：発生前～始，ミズガヤツリ：発生前～始.	㊐ g／a 300～400	壌土～埴土（2cm／日以下）	
	MTS－1粒	土壌	全域の普通期，	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ.	－3～＋7（ノビエ1Lまで）.	㊐ g／a	砂壌土～埴土	

薬剤名		処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II－2. 稚苗・移植前後土壌処理（つづき）	MTS－1粒（つづき）		温暖地以西の早期.		ホタルイ：発生前～発生始.	300～400	（2cm／日以下）	
	CM－202粒	土壌	寒冷地，温暖地の普通期.	一年生雑草.	＋0～＋3.	㊥ g／a 300～400	壌土～埴土（2cm／日以下）	1）CNP粒に準ずる.
	CM－203粒	土壌	寒冷地，温暖地の普通期.	一年生雑草.	＋0～＋3.	㊥ g／a 300～400	壌土～埴土（2cm／日以下）	1）CNP粒に準ずる.
	NK－049・S粒	土壌	寒冷地以西の普通期，温暖地東部および暖地の早期.	一年生雑草，マツバイ.	－3～－1，＋2～＋3.	㊥ g／a 300～400	砂壌土～埴土（2cm／日以下）	1）抑草期間が短いので組み合せ処理の前処理剤として使用する.
	CNP－18粒	土壌	全域普通期.	一年生雑草，マツバイ.	－3～＋7（ノビエ1Lまで）.	㊥ g／a 300	壌土～埴土（極端な漏水田を除く）.	
	X－52 水和	土壌	寒冷地以西の普通期，温暖地東部の早期.	一年生雑草，マツバイ.	移植当日（±0）.	㊥ g／a 30	砂壌土～埴土（2cm／日以下）	1）移植前後に適下処理する. 2）水稲移植直後の場合は水稲の茎葉にかからないようにする.
	X－52・SK－23粒	土壌	寒地，寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ.	－3～＋7（ノビエ1Lまで）. ホタルイ・ヒメホタルイ：発生前～発生始，ミズガヤツリ：発生前～3L.	㊥ g／a 300	壌土～埴土（2cm／日以下） 砂壌土（1cm／日以下）	1）X－52粒剤に準じる.
			温暖地東部の普通期，早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヒメホタルイ.				
			温暖地西部，暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ.				
			暖地の早期.	一年生雑草，マツバイ，ミズガヤツリ.				
	ブタクロール（5.0）粒	土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	－8～＋10（ノビエ1.5L）. ホタルイ：発生前～2L，ヘラオモダカ：発生前～始.	㊥ g／a 200～300	壌土～埴土（2cm／日以下）	1）極端な浅植はさける. 2）低温時には使用しない. 3）200g／a散布は多口ホース散布とする.
			寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，	－6～－3（ノビエ1.5L）.	㊥ g／a 200		

薬剤名		処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II－2. 稚苗・移植前後土壌処理（つづき）	ブタクロール（5.0）粒（つづき）			ヘラオモダカ.	ホタルイ：発生前～2L，ヘラオモダカ：発生前～始.			
				一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ミズガヤツリ.	＋3～＋10（ノビエ1.5L）. ホタルイ：発生前～2L，ミズガヤツリ：発生前～3L.	㊐ g／a 300		
			温暖地以西の普通期，暖地の早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ミズガヤツリ.	＋3～＋10（ノビエ1.5L）. ホタルイ：発生前～2L，ミズガヤツリ：発生前～3L.	㊐ g／a 300	同上	同上
II－3. 稚苗・移植後土壌処理	S－28 粒	土壌	温暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ.	＋0～＋6（ノビエ1Lまで）.	㊐ g／a 300	壌土～埴土（2cm／日以下）	
			暖地の普通期，早期.				砂壌土～埴土（1cm／日以下）	
	MSW－1 粒	土壌	寒冷地以西の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ.	＋3～＋7（ノビエ1.5Lまで）. ウリカワ：発生始～2L.	㊐ g／a 300～400	壌土～埴土（1cm／日以下）	
	モリネート・M 粒	土壌	寒冷地，温暖地東部の普通期，温暖地東部の早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ミズガヤツリ.	0～＋6（ノビエ1.5Lまで）. ホタルイ：発生始，ミズガヤツリ：発生始.	㊐ g／a 300～400	壌土～埴土（1cm／日以下）	
			暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ.				
			暖地の早期.	一年生雑草，マツバイ，ミズガヤツリ.				
	モリネート・K 粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	＋5～ノビエ2.5Lまで. ホタルイ：発生始～3L，ヘラオモダカ：発生始～3L，	㊐ g／a 300～400	砂壌土～埴土（2cm／日以下）	1）コナギ多発田では早目（2Lまで）に使用する.
			寒冷地，温暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ，				

薬剤名		処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II－3. 稚苗・移植後土壌処理（つづき）	モリネート・K 粒（つづき）			ミズガヤツリ.	ミズガヤツリ：発生始～3L.			
			温暖地東部の早期，暖地の普通期，早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ミズガヤツリ.				
	モリネート・K・PHC 粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	＋5～ノビエ2.5Lまで. ホタルイ：発生始～3L，ヘラオモダカ：発生始～3L，ミズガヤツリ：発生始～3L.	㊤ 300～400	砂壌土～埴土（2cm／日以下）	1）コナギ多発田では早目（2Lまで）に使用する. 2）PHC が適用できる地帯で使用する.
			寒冷地，温暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ，ミズガヤツリ.				
			温暖地東部の早期および暖地の普通期，早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ミズガヤツリ.				
	MT－B－3015Ⓗ 粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	＋2～ノビエ2Lまで. ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ：発生始～2L.	㊤ g／a 300～400	砂壌土～埴土（2cm／日以下）	
			寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ，ウリカワ，ミズガヤツリ.				
			温暖地以西の普通期，温暖地東部および暖地の早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.				
II－4. 稚苗・茎葉兼土壌処理	S－28・SM 粒	茎葉兼土壌	温暖地の普通期，温暖地東部の早期.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ，ヘラオモダカ.	＋12～ノビエ2.5L. ウリカワ：発生始～4L，ヘラオモダカ：発生始～4L.	㊤ g／a 300～400	壌土～埴土（2cm／日以下）	1）シメトリン混合剤の使用上の注意を守る.
	CG－102 粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	＋8～ノビエ2.5L.（但し，寒地は＋7～ノビエ2.0L，寒冷地は＋10～ノビエ2.5L.）	㊤ g／a 300	壌土～埴土（2cm／日以下）	1）シメトリン混合剤の使用上の注意を守る.
			寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ヘラオモダカ.				
			温暖地以西の普通期，	一年生雑草，マツバイ.				

薬剤名		処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II－4. 稚苗・茎葉兼土壌処理（つづき）	CG－102 粒（つづき）		温暖地東部および暖地の早期.		ホタルイ：発生始～2L. ヘラオモダカ：発生始～2L.			
	TH－63 粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	＋8～ノビエ2.5L. （但し，寒地＋7－2.0L，寒冷地＋10～2.5L，温暖地西部以西＋8～3.0Lまで.） ホタルイ：発生始～5L，ヘラオモダカ：発生盛～4L，ウリカワ：発生盛～5L. ミズガヤツリ：発生盛～6L.	㊐ g/a 300	壌土～埴土（2cm/日以下）	1）シメトリン混合剤の使用上の注意を守る.
			寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ，ウリカワ，ミズガヤツリ.				
			温暖地以西の普通期，早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.				
	SMX 粒	茎葉兼土壌	温暖地東部の普通期，早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.	＋10～ノビエ2.0L. ウリカワ：発生盛～5L，ホタルイ：発生始～3L，ミズガヤツリ：発生盛～4L.	㊐ g/a 300～400	壌土～埴土（2cm/日以下）	1）シメトリン混合剤の使用上の注意を守る.
			温暖地西部の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.				
	モリネート・KM 粒	茎葉兼土壌	温暖地以西の普通期，温暖地東部の早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.	＋10～ノビエ3L. ホタルイ：発生始～3L，ウリカワ：発生始～4L，ミズガヤツリ：発生始～3L.	㊐ g/a 300～400	砂壌土～埴土（2cm/日以下）	1）低温時の使用は薬害発生の危険性があるので使用はさしひかえる.
			暖地の早期.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.				
	B－3015・S・MCPB粒		寒冷地，温暖地東部，	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，	＋15～ノビエ3.0L.	㊐ g/a	壌土～埴土	1）シメトリン混合剤の使用上の注意を守る.

薬剤名		処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II－4. 稚苗・茎葉兼土壌処理（つづき）	B－3015・S・MCPB 粒（つづき）	茎葉兼土壌	の普通期，早期.	ヘラオモダカ，ウリカワ，ミズガヤツリ.	〔寒冷地はイネ5.0 L以降，暖地はイネ6.0 L以降，ノビエ3.5 Lまで.〕 ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ：発生始～4 L， ウリカワ：発生盛～5 L.	300～400	（2cm／日以下）	2）低温時の使用は薬害発生の危険性があるので使用はさしひかえる.
			温暖地西部の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ.				
			暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ.				
	KH－195 粒	茎葉兼土壌	温暖地以西の普通期，温暖地東部の早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ.	＋10～ノビエ2.0L. 〔但し，暖地は＋7～ノビエ2.0 L.〕 ホタルイ：発生始～3 L， ウリカワ：3～4 L.	㊐ g／a 300～400	壌土～埴土（2cm／日以下）	1）低温時の使用は薬害発生の危険性があるので使用はさしひかえる.
	モリネート・SM 粒	茎葉兼土壌	寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ.	＋15～ノビエ3.5 L. 〔但し，寒冷地はイネ5.0 L以降，暖地はイネ6.0 L以降.〕 ホタルイ：発生始～5 L， ヘラオモダカ：発生始～4 L， ウリカワ：発生盛～6 L， ミズガヤツリ：発生始～4 L， ヒメホタルイ：10cm以内.	㊐ g／a 300～400 壌土～垣土（2cm／日以下）	砂壌土～埴土（2cm／日以下）	1）シメトリン混合剤の使用上の注意を守る. 2）低温時の使用は薬害発生の危険性があるので使用はさしひかえる.
			温暖地東部の普通期，早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ，ヒメホタルイ.				
			温暖地西部の普通期，暖地の早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.				
			暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ.				
II－5. 稚苗・	S－28・SM 粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理をした場合，＋20～＋30（ノビエ2.5 L）. 〔但し，寒地ではノビエ2.0L.〕	㊐ g／a 300	砂壌土～埴土（1.5cm／日以下）	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）シメトリン・ホルモン系除草剤の使用上の注意を守る.
			寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ.				

薬剤名		処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II－5. 稚苗・適用時期拡大	S－28・SM粒（つづき）				寒冷地以北ではイネ5.0L以降. ウリカワ：発生始～3L， ヘラオモダカ：発生始～2L.		但し，寒地は壌土～埴土（1.5cm／日以下）	
			温暖地東部の普通期，早期.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ，ヒメホタルイ.	＋15＋25（ノビエ2.5L）. ウリカワ：3～4L， ヒメホタルイ：5～10cm.			
	HOK－05・B粒	茎葉兼土壌	寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理をした場合，＋20～＋25（ノビエ2L）.	㊐ g／a 300～400	壌土～埴土（2cm／日以下） 砂壌土（1cm／日以下）	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる. 3）低温時の使用は薬害の危険性があるので使用はさしひかえる.
			温暖地東部の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ，ヘラオモダカ，ホタルイ，セリ.	暖地普通期＋16～＋25 但し，寒冷地はイネ5.0L以降.			
			温暖地西部以西の普通期，暖地の早期.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ，ホタルイ.	ホタルイ：発生始～2L， ヘラオモダカ：発生始～5L， ウリカワ：発生始～5L， セリ：増殖初期まで.			
	HOK－06粒	茎葉兼土壌	寒冷地.	一年生非イネ科雑草，マツバイ，ホタルイ，オモダカ，ミズガヤツリ.	田植前後土壌処理をした場合，＋30～＋35. 一年生非イネ科：生育期， ホタルイ：発生前～4L， ウリカワ：発生盛～6L， オモダカ：発生盛～6L， ミズガヤツリ：発生盛～6L.	㊐ g／a 300～400	砂壌土～埴土（2cm／日以下）	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）低温時の使用は薬害の危険性があるので使用はさしひかえる.
			温暖地の普通期，温暖地東部の早期.	一年生非イネ科雑草，マツバイ，ウリカワ，ホタルイ，ミズガヤツリ.				
			暖地の早期.	一年生非イネ科雑草，マツバイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.				

薬剤名		処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ－5. 稚苗・適用時期拡大（つづき）	CG－102 粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ，ヒルムシロ.	田植前後土壌処理をした場合，＋15～＋25（ノビエ2.5 L）.［但し，寒地は2.0 Lまで.］ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ：発生始～2 L，ヒルムシロ：発生盛～増殖初期，ヒメホタルイ：5～10cm.	㊥ g／a 300～400	砂壌土～埴土（2cm／日以下）	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）シメトリン混合剤と同様の使用上の注意を守る. 3）ミズガヤツリに有効な前処理剤を使用する.
			寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ，ヒルムシロ，ミズガヤツリ.				
			温暖地東部の普通期，早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ミズガヤツリ，ヒルムシロ，ヒメホタルイ.［但し，早期はヒルムシロ，ヒメホタルイを除く.］				
			温暖地西部普通期，早期，暖地の早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ.				
			暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ.				
	TH－63 粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ，ウリカワ.	田植前後土壌処理をした場合，＋15～＋25（ノビエ2.5L）.［但し，寒地は2.0 L.］ホタルイ：発生盛～5 L，ウリカワ：発生盛～5 L，ヘラオモダカ：発生盛～4L，ミズガヤツリ：発生盛～6L，ヒルムシロ：発生盛～増殖初期，ヒメホタルイ：5～10cm.	㊥ g／a 300～400	砂壌土～埴土.（2cm／日以下）	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）シメトリン混合剤の使用上の注意を守る.
			寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ヘラオモダカ，ミズガヤツリ.				
			温暖地東部の普通期，早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ミズガヤツリ，ウリカワ，ヒメホタルイ.				
			温暖地西部の普通期，早期，暖地の早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.				
			暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ.				

薬剤名		処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II－5. 稚苗・適用時期拡大（つづき）	NK-049 粒	土壌	温暖地西部以西の普通期.	一年生雑草.	－2～－3.	㊀ g／a 300～400	壌土～埴土（1cm／日以下）	1）体系処理の前処理剤として使用する.
	シメトリン・MCPB (2.5) 粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理をした場合，＋20～＋25（ノビエ1.5 L）.	㊀ g／a 300	壌土～埴土（2cm／日以下）	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）シメトリン混合剤の使用上の注意を守る. 3）低温時の使用は薬害の危険性があるので使用はひかえる.
			寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ.	〔但し，寒地は＋20～＋30，寒冷地以北はイネ5.0 L以降.〕			
			温暖地東部の普通期.	一年生雑草，マツバイ.	ホタルイ・ヘラオモダカ：発生始～2 L.	㊀ g／a 300～400		
	シメトリン・MCPB (3.5) 粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理をした場合，＋20～＋25（ノビエ2.0 L）.	㊀ g／a 300	砂壌土～埴土（2cm／日以下）〔但し，寒地は砂壌土を除く.〕	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）シメトリン混合剤の使用上の注意を守る. 3）低温時の使用は薬害の危険性があるので使用はひかえる.
			寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ.	〔但し，寒地は＋20～＋30，寒冷地以北はイネ5.0 L以降.〕 ホタルイ：発生始～2 L，ウリカワ：発生始～4 L，ヘラオモダカ：発生始～2 L.			
	SMX 粒	茎葉兼土壌	寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ，ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理をした場合，＋15～＋25（ノビエ2.0 Lまで）.	㊀ g／a 300	砂壌土～埴土（2cm／日以下）	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）シメトリン混合剤の使用上の注意を守る. 3）低温時の使用は薬害の危険性があるので使用はひかえる.
			温暖地東部の普通期，早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.	〔但し，寒冷地では＋20～＋25イネ5.0 L以降，ノビエ2.0 Lまで.〕			
			温暖地西部の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.	ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ ヘラオモダカ：発生盛～5 L.			

薬剤名		処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ－5. 稚苗・適用時期拡大（つづき）	SMX(Na)粒	茎葉兼土壌	寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ，ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理をした場合，＋15～＋25（ノビエ2L）.（但し，寒冷地＋20～＋25，イネ5.0L以降ノビエ2.0Lまで.）ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒメホタルイ：発生盛～5L.	㊢ g/a 300	砂壌土～埴土（2cm/日以下）	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）シメトリン混合剤の使用上の注意を守る. 3）低温時の使用は薬害の危険性があるので使用はひかえる.
			温暖地東部の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.				
	BAS－3510水和	茎葉（落水散布）	寒冷地.	一年生非イネ科雑草，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ，ヘラオモダカ，オモダカ.	田植前後土壌処理をした場合，一年生非イネ科：生育期. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・オモダカ・セリ：発生盛～増殖初期，コウキヤガラ：＋30日前後.	㊢ g/a 40～60	全土壌	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）散布は水稲になるべくかからないようにする. 3）処理後の湛水は48～72時間経過後に行なう.
			温暖地東部の普通期，早期.	一年生非イネ科雑草，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ，ヘラオモダカ，コウキヤガラ，オモダカ.（但し，早期はオモダカを除く）.				
			温暖地西部の普通期.	一年生非イネ科雑草，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ，ヘラオモダカ，コウキヤガラ，オモダカ，セリ.				
			暖地の普通期.	一年生非イネ科雑草，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ，ヘラオモダカ，コウキヤガラ.				
			暖地の早期.	一年生非イネ科雑草，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ，コウキヤガラ.				

薬剤名		処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II－5. 稚苗・適用時期拡大（つづき）	BAS－3510(Na)液	茎葉（落水散布）	寒冷地.	一年生非イネ科雑草，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ，オモダカ，ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理をした場合，一年生非イネ科：生育期. ホタルイ・ウリカワ・オモダカ・ヘラオモダカ・セリ・コウキヤガラ：発生盛～増殖初期.	㊐ ml／a 40～60	全土壌	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）散布は水稲になるべくかからないようにする. 3）処理後の灌水は48～72時間経過後に行う.
			温暖地東部の普通期，早期.	一年生非イネ科雑草，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.				
			温暖地西部の普通期.	一年生非イネ科雑草，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ，オモダカ，セリ，ヘラオモダカ.				
			暖地の普通期.	一年生非イネ科雑草，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ，コウキヤガラ.				
			暖地の早期.	一年生非イネ科雑草，ウリカワ，ミズガヤツリ，コウキヤガラ.				
	モリネート・KM粒	茎葉兼土壌	寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ミズガヤツリ，ヘラオモダカ，ウリカワ，オモダカ.	田植前後土壌処理をした場合，＋20～＋25.（但し，イネ5L以降ノビエ3.0Lまで.）ホタルイ：発生始～3L，ミズガヤツリ：発生始～4L，ヘラオモダカ：発生前～4L，オモダカ：発生始～3L，ウリカワ：発生始～4L.	㊐ g／a 300	砂壌土～埴土（2cm／日以下）	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）低温時の使用は薬害発生の危険性があるので使用はひかえる. 3）暖地早期は4月中旬以降の移植のものに限る.
			温暖地以西の普通期，早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.	＋15～＋25（ノビエ3L）. ホタルイ：発生始～3L，ウリカワ：発生	㊐ g／a 300～400		

薬剤名		処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II－5. 稚苗・適用時期拡大（つづき）	モリネート・KM粒（つづき）				始～4L，ミズガヤツリ：発生始～3L.			
	MT－101粒	土壌	寒冷地以西の普通期.	一年生広葉雑草，マツバイ，ウリカワ.	＋5～＋10．ウリカワ：発生始～3L.	㊐ g／a 300～400	砂壌土～埴土（2cm／日以下）	
	TNY－53粒	土壌	全域の普通期.	一年生雑草，マツバイ.	－3～＋5（ノビエ1L）．〔但し，寒地・寒冷地北部は＋3～＋7（ノビエ1L）.〕	㊐ g／a 200～300〔但し，寒地寒冷地北部は200〕	砂壌土～埴土（2cm／日以下）	1）浅水処理をする.
	B－3015・S・MCPB粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理をした場合，＋20～＋30（ノビエ3L）．〔但し，寒地では2.5L，寒冷地以北ではイネ5.0L以降.〕ホタルイ：発生始～4L，ウリカワ：発生始～4L，ヘラオモダカ：発生始～4L，ミズガヤツリ：発生始～4L.	㊐ g／a 300～400〔但し，寒地では300〕	壌土～埴土（2cm／日以下）	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）シメトリン混合剤の使用上の注意を守る. 3）低温時の使用は薬害発生の危険性があるので使用はひかえる.
			寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ヘラオモダカ，ミズガヤツリ.				
			温暖地東部の普通期，早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.				
			温暖地西部以西の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ.	＋20～＋25（ノビエ3L）．ホタルイ：発生始～4L，ウリカワ：発生始～5L.			
	N－301粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理をした場合，＋20～＋25（ノビエ2.5L）．〔但し，寒地ではノビエ2.0L〕	㊐ g／a 300～400〔但し，寒地では300〕	壌土～埴土（2cm／日以下）	1）低温時の使用は薬害の発生の危険性があるので使用はひかえる.
			寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，				

薬剤名		処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II－5. 稚苗・適用時期拡大（つづき）	N－301粒（つづき）			ミズガヤツリ.	寒冷地以北ではイネ5.0 L以降.			
			温暖地東部の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ.	ホタルイ：発生始～3 L，ヘラオモダカ：発生始～2L，ミズガヤツリ：発生始～4L.			
			温暖地西部の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ミズガヤツリ.				
			暖地の普通期.	一年生雑草，マツバイ.				
	MCP・BAS(Na)液	茎葉（落水散布）	寒冷地.	一年生非イネ科雑草，ホタルイ，ミズガヤツリ.	MCP散布時期に準ずる.	㊦ ml/a 30～50	全土壌	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）水稲になるべくかからないように散布する. 3）入水は処理後48～72時間経過後に行う.
			温暖地以西の普通期.	一年生非イネ科雑草，ホタルイ，ウリカワ，ヘラオモダカ，ミズガヤツリ，コウキヤガラ.	但し，寒冷地は＋40～＋48 暖地は＋15～＋26. 一年生非イネ科：生育期，ホタルイ：発生揃～4 L，ウリカワ：塊茎形成前，ヘラオモダカ：発生揃～5L，ミズガヤツリ：発生揃～8L. コウキヤガラ：＋30～＋40.			
	MCP・BAS㊊粒	茎葉	寒地.	一年生非イネ科雑草，ホタルイ，ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理をした場合，＋30～＋45.	㊦ g/a 300～400	砂壌土～埴土（1.5cm／日以下）	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）浅水もしくは落水散布.
			寒冷地.	一年生非イネ科雑草，マツバイ，ホタルイ.	但し，温暖地は＋20～＋30. 一年生非イネ科：生育期，ホタルイ：発生揃～4 L，ヘラオモダカ：発生揃～6L，ミズガヤツリ：発生揃～6L，ウリカワ：増殖開始前.			
			温暖地の普通期，温暖地東部の早期.	一年生非イネ科，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.				
	モリネート・SM粒		寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理をした場合，＋20～＋30.	㊦ g/a 300～400	砂壌土～埴土	1）前処理剤との組み合わせで使用する.

薬剤名		処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II－5. 稚苗・適用時期拡大（つづき）	モリネート・SM粒（つづき）	茎葉兼土壌	寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ヘラオモダカ，ミズガヤツリ.	ノビエ3.5 Lまで. 但し，寒地は2.5 Lまで. ホタルイ：発生始～5 L，ウリカワ：発生始～4 L，ヘラオモダカ：発生始～4 L，オモダカ：発生始～5 L，ミズガヤツリ：2～6 L，ヒメホタルイ：10 cm以下.		（2cm／日以下）	2）シメトリン混合剤の使用上の注意を守る. 3）低温時の使用は薬害発生の危険性があるので使用はひかえる. 4）ミズガヤツリの場合は，ミズガヤツリに有効な土壌処理剤（前処理剤）とを組み合わせて使用する.
			温暖地東部の普通期，早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ，ヒメホタルイ.				
			温暖地西部の早期.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.				
			暖地の早期.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ.				
	2.4－D・BAS Ⓛ 粒	茎葉	温暖地の普通期.	一年生非イネ科雑草，マツバイ，ホタルイ，ウリカワ，ミズガヤツリ，ヒメホタルイ.	田植前後土壌処理をした場合，＋30～＋35. 一年生非イネ科：生育期. ホタルイ：発生揃～4 L. ミズガヤツリ：発生揃～6L. ウリカワ：増殖開始前，ヒメホタルイ：草丈5～10 cm.	㊐ g／a 300～400	砂壌土～埴土（1.5cm／日以下）	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）落水若しくは1～2cmの浅水で使用する. 3）処理後の灌水は48～72時間経過後に行う.
	MCC・M－15 粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ，ヘラオモダカ.	田植前後土壌処理をした場合，＋25～＋30（ノビエ2 L）. ホタルイ・ヘラオモダカ：発生始～2 L.	㊐ g／a 300	壌土～埴土（2cm／日以下）	1）道央以南.
	KH－191 粒	茎葉兼土壌	寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ホタルイ.	田植前後土壌処理をした場合，＋15～＋25（ノビエ1.5L）. ホタルイ：発生始.	㊐ g／a 300～400	壌土～埴土（2cm／日以下）	

薬剤名	処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II－5. 稚苗・適用時期拡大（つづき） (X－52)→S－28・AM 粒	茎葉兼土壌	寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ヘラオモダカ，ウリカワ.	田植前後土壌処理をした場合，＋20～＋25.（ノビエ2.5Lまで）.〔但し，寒冷地以北ではイネ5.0L以降.〕ウリカワ：5Lまで，ヘラオモダカ：始～2L.	㊐ g／a 300	壌土～埴土（2cm／日以下）	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）低温時の使用は薬害の危険性があるので使用はひかえる.
		温暖地東部の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ.			壌土～埴土（2cm／日以下）砂壌土（1.5cm／日以下）	
BAS－3510(Na) 粒	茎葉兼土壌	寒地.	一年生非イネ科，マツバイ，ヘラオモダカ，ホタルイ.	田植前後土壌処理をした場合，一年生非イネ科：生育期，ホタルイ・ヘラオモダカ：発生盛期，増殖初期.	㊐ g／a 300～400	壌土～埴土（2cm／日以下）	1）浅水散布，3日止水をする.
SC-7616 粒	茎葉兼土壌	寒冷地.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ.	田植前後土壌処理をした場合，＋20～＋25.（ノビエ2.0Lまで）.〔但し，寒冷地はイネ5.0L以降.〕ウリカワ：発生盛～5L，ホタルイ：発生始～2L，.	㊐ g／a 300	砂壌土～埴土（2cm／日以下）	1）前処理剤との組み合わせで使用する. 2）低温時の使用は薬害発生の危険性があるので使用はひかえる.
		温暖地東部の普通期.	一年生雑草，マツバイ，ウリカワ，ホタルイ.				
MCP・BAS 水和	茎葉	暖地の早期.	コウキヤガラ.	MCP処理時期に準ずる. コウキヤガラ：＋25～＋36.（生葉1～7L，草丈60cm程度）	㊐ g／a 50	全土壌	

薬剤名		処理法	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
III－1. 湛水直播.	TNY－53 粒	土壌	温暖地西部以西.	一年生雑草，マツバイ.	植代後（－5～－2）.	㊥ g／a 200～300	壌土～埴土（1cm／日以下）	
III－2. 乾田直播	G－315㊥ 乳	土壌	温暖地東部.	一年生雑草.	播種後，雑草発生前～始（イネ出芽前）.	㊥ ml／a 30～40	壌土～埴土	1）雑草発生前より発生始期でより効果が大きい.
	BAS－3510(Na) 液	茎葉	温暖地以西.	ミズガヤツリ，一年生広葉雑草.	一年生広葉雑草：生育期. ミズガヤツリ：発生揃後～7L.	㊥ ml／a 入水前 40～60 入水後 30～60	全土壌	1）入水後処理も落水処理で効果が高い. 2）DCPA剤と7日以内の近接散布はさける.
	S－28・P 乳	土壌	温暖地東部.	一年生雑草.	播種後，雑草発生前～始（イネ出芽前）.	㊥ ml／a 80～120	壌土～埴土	
	B－3015・P 粒	土壌	温暖地西部以西.	一年生雑草.	播種直後（＋0～＋1）.	㊥ g／a 400～600	砂壌土～埴土 但し，暖地は砂壌土を除く.	
	B－3015・P 乳	土壌	寒冷地以西.	一年生雑草.	播種直後～イネ出芽前まで（ノビエ1Lまで）.	㊥ ml／a 60～100 〔但し，寒冷地温暖地東部は60～80〕	砂壌土～埴土 〔但し，寒冷地は砂壌土を除く.〕	
IV. 畦畔	DCMU 水和	茎葉兼土壌	寒冷地～温暖地.	全草種.	発生前～発生始期.	㊥ g／a 15～30	全土壌	畦畔散布上の注意を守る。

昭和51年度畑作関係除草剤試験成績概要

財団法人　日本植物調節剤研究協会技術部

昭和51年度畑作関係除草剤の試験成績中央検　　討会結果を報告する。

昭和51年度に供試された畑作関係除草剤は，定性スクリーニングに4薬剤，作用特性試験として大豆6薬剤，小豆5薬剤，菜豆5薬剤，落花生3薬剤，とうもろこし1薬剤，陸稲1薬剤，てん菜1薬剤，ばれいしょ2薬剤，さとうきび3薬剤，かんしょ2薬剤計29薬剤であった。適用性試験は計31薬剤が委託試験され，その試験結果に基づく判定結果は第1表のとおりである。さらに，実用化可能と判定された薬剤の使用基準は第2表のとおりである。

第1表　昭和51年度畑作関係除草剤適用性試験結果判定表

区　　分	実	実・継	継
1）大　豆	SSH－36液剤.	NP－48（Na）水溶剤， S－28乳剤， B－3015・P粒剤， トリフルラリン粒剤， トリフルラリン乳剤 ＋リニュロン水和剤， ANK－553乳剤.	TH－68乳剤， DAC－893乳剤， HSW－761水和剤， BAS－3510水和剤， トリフルラリン乳剤 ＋DNBP液剤， M－51水和剤， M－61水和剤.
2）小　豆		SSH－36液剤， SKH－01水和剤.	TH－68乳剤， S－28乳剤， DAC－893乳剤， トリフルラリン乳剤 ＋DNBP液剤.
3）菜　豆			TH－68乳剤， S－28乳剤， SSH－36液剤， DAC－893乳剤， HSW－761水和剤， BAS－3510水和剤， トリフルラリン乳剤 ＋DNBP液剤， トリフルラリン乳剤 ＋リニュロン水和剤.
4）落花生	NK－049・P水和剤， プロメトリン・アラクロール乳剤.	NP－48（Na）水溶剤， B－3015・P粒剤， ANK－553乳剤.	S－28乳剤， U－67粒剤.
5）とうもろこし			ANK－553乳剤， SSH－43水和剤.
6）陸　稲		B－3015・P粒剤.	ANK－553乳剤.
7）さとうきび			VEL－26水和剤， DPX－3674水和剤.
8）ばれいしょ			MB－76水和剤.

区　　分	実	実　・　継	継
9）かんしょ	B－3015・P粒剤， NTN－80水和剤.	NP－48（Na）水溶剤， NK－049水和剤.	SL－501水溶剤， SL－502水和剤.
10）こんにゃく	パラコート液剤 ＋トリフルラリン乳剤， MCC粒剤.	B－3015・P粒剤.	SSH－36液剤.
11）てん菜（移植）		U－67水和剤.	NP－48（Na）水溶剤， SL－38乳剤＋PAC水和剤， SL－38乳剤＋ベタナール水和剤.
12）てん菜（直はん）			SL－38乳剤＋PAC水和剤.

注）本年度は「継？」，「中止」と判定された薬剤はなかった.

第2表　昭和51年度畑作関係実用化除草剤使用基準一覧表

区　分	薬　剤　名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使　用　量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1）大　豆	NP－48(Na)	水　溶	実・継	茎　葉	イネ科2～5L（北海道2～4L）	10～15 g/a	全土壌	温暖地以北	単用および体系処理.
	S－28	乳	実・継	土　壌	出芽前	20～40 ml/a	全土壌	寒　地	
	B－3015・P	粒	実・継	土　壌	は種後	400～600 g/a	全土壌	全　域	
	SSH－36	液	実	土　壌	出芽前	80～100 ml/a	全土壌	寒　地	出芽前～出芽直前.
	トリフルラリン	粒	実・継	土　壌	は種後	400～600 g/a	全土壌（砂土，砂壌土を除く.）	寒冷地，温暖地.	イネ科対象.
	トリフルラリン＋リニュロン	乳 水　和	実・継	土　壌	は種後～出芽前	トリフルラリン 20 ml/a＋リニュロン 10～15 g/a	（全土壌－寒冷地 火山灰土壌－温暖地）		
	ANK－553	乳	実・継	土　壌	は種後	20　g/a	火山灰土壌	寒　地	
2）小　豆	SSH－36	液	実・継	土　壌	出芽前	80～100 ml/a	全土壌	寒　地	出芽前～出芽直前.

区　分	薬　剤　名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
小　豆 （つづき）	ＳＫＨ－01	水　和	実・継	土　　壌	は種後～出芽前	10～20 g／a	全土壌	寒　地	イネ科，ツユクサに効果劣る．
3）落花生	ＮＰ－48（Na）	水　溶	実・継	茎　　葉	イネ科2～5 L	10～15 g／a	全土壌	温暖地以西	単用および体系処理．
	Ｂ－3015・P	粒	実・継	土　　壌	は種後	400 ～ 600 g／a	全土壌	寒冷地以南	マルチ含む．
	ＡＮＫ－553	乳	実・継	土　　壌	は種後	20～30ml／a	全土壌	温暖地以西	無マルチ．
	ＮＫ－049・P	水　和	実	土　　壌	は種後	40～60g／a	全土壌	温暖地以西	
	プロメトリン・アラクロール	乳	実	土　　壌	は種後 マルチ前	20～30ml／a	全土壌 （砂土，砂壌土を除く．）	温暖地以前 寒冷地	無マルチ． マルチ．
4）陸　稲	Ｂ－3015・P	粒	実・継	土　　壌	は種後	400 ～ 600 g／a	全土壌	寒冷地以南	
5）かんしょ	ＮＰ－48（Na）	水　溶	実・継	茎　　葉	イネ科2～5 L	10～15g／a	全土壌	暖　地	
	Ｂ－3015・P	粒	実	土　　壌	挿苗後	400 ～ 600 g／a	全土壌 （砂土を除く．）	温暖地以西	
	ＮＴＮ－80	水　和	実	土　　壌	挿苗後	30～50g／a	全土壌	温暖地以西	
	ＮＫ－049	水　和	実・継	土　　壌	挿苗前	60～100 g／a	全土壌	温暖地以西	
6）こんにゃく	Ｂ－3015・P	粒	実・継	土　　壌	植付後または培土後	400 ～ 600 g／a	全土壌	寒冷地および温暖地	
	パラコート＋トリフルラリン	液＋乳	実	茎葉兼土壌	植付後または培土後	パラコート20～30ml／a＋トリフルラン20～30 ml／a	全土壌	寒冷地および温暖地	
	ＭＣＣ	粒	実	土　　壌	植付後または培土後	400 ～ 600 g／a	全土壌	寒冷地および温暖地	

区　分	薬　剤　名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使　用　量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
7）てん菜	U－67	水　和	実・継	土　　壌	移植後 雑草発生前	25～35 g／a	全土壌	寒　地	移　植.

昭和51年度水稲・畑作関係 生育調節剤試験成績概要

財団法人　日本植物調節剤研究協会技術部

昭和51年度水稲・畑作関係生育調節剤試験成績検討会の結果を報告する。本年度は水稲関係8剤，畑作関係9剤，その他マルチ関係で4点が供試されたが，その検討結果を示すと次表の通りである。なお，マルチ関係については，別の検討会を開催し検討する。

昭和51年度　水稲・畑作関係生育調節剤審査判定および使用基準

I　水稲関係

薬　剤　名	有効成分および含有率	試　験　目　的	判　定	実用化に対する処理法	継　続　の　内　容
1） N－2000水和	・9－ベンジルアデニン　1％	・倒伏防止.	継		・倒伏防止には明らかな効果は認められなかった。散布部位と効果との関係を検討する必要あり.
〔参考〕 （昭和48年度） （昭和49年度）		・活着促進効果. ・苗の乾物重増大. ・ペーパーポット苗ばらまき後の苗屈起促進.	実および継	・普通苗代では田植えの2週間前頃の茎葉に20ppm水溶液を100ml／m^2 噴霧処理する. 展着剤は使用しない. ・稚苗では田植え1週間前に20ppm 水溶液を120ml／m^2茎葉に噴霧する. 展着剤は使用しない. ・苗の屈起促進のためには，田植えの7日前に20ppm 液を200ml／m^2 散布する.	・適用地域の拡大. ・本田における耐倒伏性・耐肥性について検討.
2） KC－481粉	・ニコチン酸アミド　50％	・健苗育成. ・活着促進.	継		・根部生育が促進され活着促進効果は認められる場合もあるが出芽防止など発芽時の稲に対

薬剤名	有効成分および含有率	試験目的	判定	実用化に対する処理法	継続の内容
2）KC－481粉（つづき）					する薬害も懸念され更に検討が必要である．
〔参考〕KC－481液（昭和50年度）	・ニコチン酸アミド 10％		〔寒地〕実〔他地域〕継	・播種時10～20ml／箱散布する． ・タチガレン処理を併用する．	
3）オキシベロン液	・インドール酪酸 0.4％	・発根促進． ・活着促進． ・健苗育成．	実および継	・播種後10日 500倍液を育苗箱当り500ccを潅注する． ・タチガレン処理を併用する．	・使用基準をこまかくつめておく必要がある．
4）カルパー 粒	・CaO_2 54％	・稲ワラすき込みによる活着不良防止，根ぐされ防止．	実および継	・400～800g／aを生わらと一緒にすき込む．	・現場の不良環境での諸条件の検討．
〔参考〕（昭和48年度）		・機械播種のための剤の開発および播種法． ・湛水直播における苗立の安定化．	実および継	・浸漬籾100gに対し30gを粉衣して播種する． ・適用条件：湛水直播．	・作業機との関係を更に検討．
5）ベンジルアデニン（BA）液	・N^6－ベンジルアミノプリン 3％	・活着促進． ・老化防止効果．	実および継	・1～1.5葉期に10～20ppm液を50ml／箱散布する．	・効果確認に関する条件解析と高効果発現のための適用品種． ・中苗での検討．
6）NGR－10 粒	・未公開	・健苗育成． ・活着促進． ・初期生育促進．	継	いわゆる“ズングリ型”となり，活着がよくなる傾向のみられるところもあるが，さらに試験の蓄積が必要である．	・稚苗育苗では十分な効果は認められなかった． ・中苗，成苗での検討．
7）ACP－68－250液	・2－クロルーエチルーフォスフォニックアシド 10％	・倒伏防止．	継		・穂首節間は短くなるが，倒伏防止効果は認められない．
8）M－11 液	・未公開 5.1％	・活着促進． ・生育期別の処理効果の確認．	継		・増収効果が認められた例もあったが，一般的には効果不明瞭であったので，増収に関連する具体的な作用性を明確にする必要がある．

II 畑作関係

薬剤名	有効成分および含有率	試験目的	判定	実用化に対する処理法	継続の内容
1） JG－01粉	・椎茸菌糸体抽出エキス　100％	〔大豆対象〕 ・増収効果.	継？		・効果不明瞭.
2） ビーナイン水溶	・N－（ジメチルアミノ）－スクシンアミド酸　80％	〔落花生対象〕 ・増収効果.	実および継	・適用地域：暖地. ・適用品種：バージニアタイプ ・開花後30日頃，7.5～10g/aを100l/10aの水量で散布.	・適用地域の拡大.
3） KP－1100乳	・特殊アニオン型界面活性剤　28％	〔落花生対象〕 ・摘花による増収効果.	実および継	・適用地域：温暖地以西. ・適用品種：バージニアタイプ. ・300倍液，20l/aを開花後30日以後に散布し，更に10日～2週間後，もう一度散布する.	・寒冷地への拡大. ・温暖地以西での交雑種についての検討.
4） KP－1200乳	・未公開　25％	〔落花生対象〕 ・摘花による増収効果.	継		・効果の変動が認められる．更に継続検討.
5） カルパー　粒	・CaO_2　54％	〔こんにゃく対象〕 ・生子の増収効果.	継		・更に継続検討.
		〔馬鈴薯対象〕 ・生育促進効果.	継		・効果不明瞭.
		〔菜豆対象〕 ・過湿畑の湿害防止. ・発芽促進. ・初期生育促進.	継		・効果不明瞭.
6） ACP－68－250液	・2－クロルーエチルーフォスフォニックアシド　10％	〔麦対象〕 ・倒伏防止.	継		・倒伏防止効果は認められるが，害（出すくみ）もでている．濃度と時期との関連から検討を要する.
7） CCC　液	・2－クロロエチルートリメチルーアンモニウム　クロライド　46％	〔小麦対象〕 ・倒伏防止.	継		・倒伏防止効果は認められ，有望であるが，更に継続して検討する.
8） レグロックス液	・ジクワット　ブロマイド　30％	〔小豆対象〕	実および継	・収穫7日前に15～30ml/aを散布する.	・処理時期の確認.

薬剤名	有効成分および含有率	試験目的	判定	実用化に対する処理法	継続の内容
9) 31603－S 水和	・2－ベンズイミドイル－3－ヒドロキシ－1.4－ナフトキノン　9%	〔早掘り馬鈴薯対象〕 ・早期収量の向上.	継		・年次による効果の変動が大きく，点数をふやしてみなければ効果の判定が難しい. ・作用性の検討.

植調第10巻第10号の訂正について

昭和51年度春夏作野菜・花き関係除草剤（材），生育調節剤（材）試験成績概要(1)の判定表24頁，「3. キク（ポットマム，福助作り）ＥＬ－531液剤」の今回の判定が「継」となっておりますが，印刷の誤りでありますので，「実」と訂正下さるよう，お願い申し上げます。

財団法人日本植物調節剤研究協会編

Weed List in Asian-Pacific Area

各国の雑草の呼称名を学名と対照した雑草名鑑。学名に対し日本名，英名，ハワイ名，インドネシヤ名，中国名，台湾名，ソビエト名，韓国名を対照している。

Ａ４版　４７ページ
定　価　2,０００円（送料別）

発行所　東京都港区芝愛宕町1－3　全国農村教育教会内
植調編集印刷事務所
電話　東京（０３）４３６－３３８８番

水田中期除草剤の実力派—！

●水田の中期除草に
アビロサン®粒剤

◎除草効果が極めて優れた、新しい茎葉兼土壌処理剤です。
◎抑草期間が長く、1ヵ月以上にわたって雑草の発生を抑えます。
◎ノビエ・コナギなど各種1年生雑草に卓効を示します。
◎多年生雑草のマツバイやヘラオモダカ・ヒルムシロにも優れた効果があります。
◎ホタルイやミズガヤツリにも効果の高い前処理剤との体系処理で十分な効果を発揮します。

アビロサンはスイス国、チバガイギー・リミテッドの登録商標

●水田雑草の総合防除に
ワイダー®粒剤

◎ほとんどの1年生雑草、マツバイと全国的に多発し問題になっているミズガヤツリ・ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ・ヒルムシロなどの各種多年生雑草を同時に防除できる水田総合除草剤です。
◎アビロサン粒剤・ワイダー粒剤ともに、低温条件下でも薬害が少なく安全に使用できます。

アビロサン・ワイダー普及会

武田薬品・石原産業・日本チバガイギー・BASFジャパン

水田の多年生雑草発生面積一覧表

昭和51年12月調べ（財）日本植物調節剤研究協会

県名		昭和51年度水稲作付面積（千ha）	草種別発生面積（千ha）									水稲作付面積に対する同左比率（%）								
			ホタルイ	ヘラオモダカ	オモダカ	ウリカワ	ミズガヤツリ	クログワイ	ヒルムシロ	コウキヤガラ	セリ	ホタルイ	ヘラオモダカ	オモダカ	ウリカワ	ミズガヤツリ	クログワイ	ヒルムシロ	コウキヤガラ	セリ
北海道		205.2	203.8	203.8	107.1	122.1			190.8			99.3	99.3	52.2	59.5			93.0		
東北	青森	84.3	43.2	5.9	30.6	2.9		17.6	4.0		0.4	51.2	7.0	36.3	3.4		20.8	4.7		0.5
	岩手	93.1	37.9	18.8	8.1	3.7	15.8	8.1	9.5			40.7	20.2	8.7	4.0	17.0	8.7	10.2		
	宮城	119.2	59.8	43.0	42.4	47.9	46.8	36.3	12.0			50.2	36.1	35.6	40.2	39.3	30.5	10.1		
	秋田	125.4	6.9	12.7	30.4	2.1	38.1	10.4	8.2	5.0	1.8	5.5	10.1	24.2	1.7	30.4	8.3	6.5	4.0	1.4
	山形	101.8	14.4		35.0	42.9	37.0	18.1				14.1		34.4	42.1	36.3	17.8			
	福島	108.8	54.0	16.0	28.8	38.3	48.5	20.5	17.7		19.6	49.6	14.7	26.5	35.2	44.6	18.9	16.3		18.1
	小計	632.6	216.0	96.4	175.3	137.8	186.2	111.0	51.4	5.0	21.8	34.1	15.2	27.7	21.8	29.4	17.5	8.1	0.8	3.4
北陸	新潟	170.8	17.1	12.5	33.0	58.3	44.5	18.8	5.9	1.7	7.9	10.0	7.3	19.3	34.1	26.1	11.0	3.5	1.0	4.6
	富山	64.1	11.7		7.9	25.4	14.2					18.3		12.3	39.6	22.2				
	石川	44.1	8.0	3.2	10.3	7.5	18.7	1.6	0.5	0.2	1.6	18.1	7.3	23.4	17.0	42.4	3.6	1.1	0.5	3.6
	福井	42.3	2.7	0.2	4.7	7.5	8.3	0.5	0.6	アリ		6.4	0.5	11.1	17.7	19.6	1.2	1.4	0.0	
	小計	321.3	39.5	15.9	55.9	98.7	85.7	20.9	7.0	1.9	9.5	12.3	4.9	17.4	30.7	26.7	6.5	2.2	0.6	3.0
関東	茨城	108.9	26.8		19.2	22.4	34.5		7.0		8.4	24.6		17.6	20.6	31.7		6.4		7.7
	栃木	104.3	19.0		20.4	15.7	18.7	10.5	3.0			18.2		19.6	15.1	17.9	10.1	0.3		
	群馬	33.1	2.0		2.2	3.0	1.7	2.8	12.0		0.4	6.0		6.6	9.1	5.1	8.5	36.3		1.2
	埼玉	62.9	3.0		2.0	30.0	20.0	20.0	1.5	クキヤガラ、アリ	1.5	4.8		3.2	47.7	31.8	31.8	2.4	0.0	2.4
	千葉	87.9	48.3	2.0	39.6	17.6	52.7	9.2	8.8	0.1	17.6	54.9	2.2	45.1	20.0	60.0	10.5	10.0	0.1	20.0
	東京	1.0					0.1	0.1	0.1							0.1	0.1	0.1		
	神奈川	67.6	0.1		0.3	0.3	0.7	0.2	0.2		0.5	1.5		4.5	4.5	10.6	3.0	3.0		7.6
	山梨	10.8	0.4		2.4		1.7		0.2		アリ	3.7		22.2		15.7	0.0	1.9		0.0
	長野	64.7	17.2		14.7	9.8	8.9	4.5	4.8			26.6		22.7	15.1	14.0	7.1	7.5		
	静岡	34.8	4.2	1.5	6.8	7.1	7.0	3.7	3.4	0.2		12.1	4.3	19.5	20.4	20.1	10.6	9.8	0.6	
	小計	515.0	121.0	3.5	107.6	105.9	146.0	51.0	41.0	0.3	28.4	23.5	0.7	20.9	20.6	28.3	9.9	8.0	0.1	5.5
東海	岐阜	50.8	5.0		5.0	14.7	6.7	0.9	1.4		5.8	9.8		9.8	28.9	13.2	1.8	2.8		11.4
	愛知	60.1	1.9	0.7	3.4	12.1	5.4	2.1	1.0	0.1	5.4	3.2	1.2	5.7	20.1	9.0	3.5	1.7	0.2	9.0
	三重	58.1	0.9	0.2	1.3	20.5	5.6	0.7	0.8	0.1	1.9	1.5	0.3	2.2	35.3	9.6	1.2	1.4	0.1	3.3
	小計	169.0	7.8	0.9	9.7	47.3	17.7	3.7	3.2	0.2	13.1	4.6	0.5	5.7	28.9	10.5	2.2	1.9	0.1	7.8
近畿	滋賀	54.6	5.9		3.7	10.0	4.4		1.9		5.8	10.8		6.8	18.3	8.0		3.5		10.6
	京都	28.7	7.2	0.3	0.9	14.3	4.3	0.6	2.9		8.6	25.1	1.0	3.1	49.8	15.0	2.1	10.1		30.0
	大阪	13.2	0.8	0.1	0.2	4.0	1.0	0.5	0.1	アリ	1.6	6.1	0.8	1.5	30.3	7.8	3.8	0.8	0.0	12.1
	兵庫	75.3	4.2	1.7	2.0	29.7	9.3	0.8	2.1	0.1	5.9	5.6	2.3	2.7	39.4	12.4	1.1	2.8	0.1	7.8
	奈良	19.6	6.0		2.0	10.0	1.0	2.0	1.0		6.0	30.6		10.2	51.0	5.1	10.2	5.1		30.6
	和歌山	15.7	3.0			7.6	0.5	0.2			0.5	19.1			48.4	3.2	1.3			3.2
	小計	207.1	27.1	2.1	8.8	75.6	20.5	4.1	8.0	0.1	28.4	13.1	1.0	4.2	36.5	9.9	2.0	3.9	0.0	13.7
中国	鳥取	25.8	0.4	2.3	2.2	7.6	2.3	0.4	0.5	0.1	3.4	1.6	8.9	8.5	29.5	8.9	0.9	1.9	0.4	13.2
	島根	39.2	6.8	0.4	6.7	9.4	12.8	2.5	3.0		7.2	17.3	1.1	17.1	24.0	32.7	6.4	7.7		18.4
	岡山	63.7	3.5	0.8	1.1	22.6	6.6	0.9	3.2	0.3	3.0	5.5	1.3	1.7	35.5	10.4	1.4	5.0	0.5	4.7
	広島	51.0	19.6	3.7	4.8	9.6	10.2	5.0	0.5		3.0	38.4	7.3	9.4	18.8	0.2	9.8	1.0		5.9
	山口	48.5	2.7	1.0	1.3	15.7	4.8	1.2	1.3	0.5	1.7	5.6	2.1	2.7	32.4	9.9	2.5	2.7	1.1	3.5
四国	徳島	21.9	0.9	1.2	1.0	8.6	3.0	0.8	1.3		2.4	4.1	5.5	4.6	39.3	13.7	3.7	5.9		11.0
	香川	27.9	0.3		1.0	2.5	1.7				1.1	1.1		3.6	9.0	6.1				3.9
	愛媛	29.6	1.2		0.4	7.8	0.6	0.1	0.3	アリ	0.6	4.1		1.4	26.4	2.0	0.3	1.0	0.0	2.0
	高知	24.7	6.3	1.3	2.0	14.2	6.9	2.8	0.8	0.1	1.7	25.5	5.3	8.1	57.5	27.9	11.3	3.2	0.4	6.9
	小計	332.3	41.7	10.7	20.5	98.0	48.9	13.7	10.9	1.0	24.1	12.5	3.2	6.2	29.5	14.7	4.1	3.3	0.3	7.3
九州	福岡	77.4	3.7			44.7	15.5	1.8	3.5	0.1	14.1	4.8			57.8	20.0	2.3	4.5	0.1	18.2
	佐賀	48.3	1.0		0.2	18.0	1.0	0.3	0.3	0.3	0.5	2.1		0.4	37.3	2.1	0.6	0.6	0.6	1.0
	長崎	27.2	4.0		アリ	15.0	2.0	アリ	0.7	0.1		14.7		0.0	55.1	7.4		2.6	0.4	
	熊本	72.5	1.5		1.1	16.2	7.8	0.6	0.4		2.2	2.1		1.5	22.3	10.8	0.8	5.5		3.0
	大分	45.9	3.0	0.8	1.4	17.0	9.8	0.8	アリ		3.0	6.1	1.7	3.1	37.0	21.4	1.7	0.0		6.5
	宮崎	38.5	2.7		0.7	9.1	2.1	0.7	0.6			7.0		1.8	23.6	5.5	1.8	1.6		
	鹿児島	47.3	4.9		2.0	16.9	10.9	1.6	2.5	0.4		10.4		4.2	35.7	23.0	3.4	5.3	0.8	
	小計	357.1	20.8	0.8	5.4	136.9	49.1	5.8	8.0	0.9	19.8	5.8	0.2	1.5	38.3	13.7	1.6	2.2	0.3	5.5
沖縄		1.4																		
総計		2,741.0	677.7	334.1	490.3	822.3	554.1	210.2	320.3	9.4	145.1	35.6	3.5							
	(%)		24.9	12.3	18.0	30.2	20.4	7.7	11.8	0.3	5.3		13.0.9							

註：　数値は各県から報告していただいたものである。県によっては発生面積と要防除面積とが報告されたが，本表は発生面積を採用した。

もっと楽な除草を！

稚苗、成苗の除草にピッタリ!!

＊容器のまま田植前に散布できる水田除草剤

ロンスター®乳剤

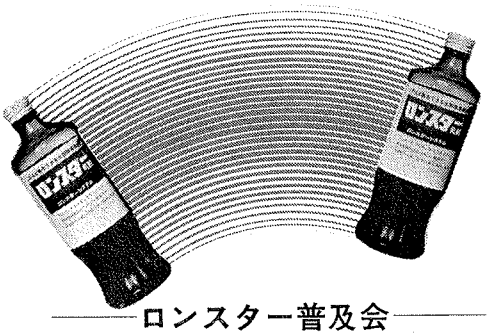
★特　長★

●容器のままきわめて簡単に散布できます。

●稚苗移植にも成苗移植にも安心して使用できます。

●すぐれた効果がきわめて長く続き経済的です。

●機械散布もできます。



ロンスター普及会

日産化学・北興化学

事務局　日産化学工業㈱農薬事業部内
東京都千代田区神田錦町３－７－１

原体製造元：ローヌ・プーラン

植調協会だより

◎　会議開催場所の変更について

・植調第10巻第９号20頁でお知らせしました昭和５１年度常緑果樹除草剤・生育調節剤試験成績検討会の会場を教育会館（予定）としてお知らせしましたが，その後，新橋・大東京ビルに変更，さらにこれを下記の通り変更しました。

場所：日本生活協同組合連合会「生協会館」
講堂（東京都渋谷区千駄谷４－１－13，
ＴＥＬ　03－405－9358）

編　集　後　記

地球もいよいよ氷河期に近づいてきたのかと思われるほど寒い日々が続く。北海道では，真冬日が１カ月以上にも及ぶという寒さである。このような寒波が続いても雑草の種子は，雪の下でやがてくるであろう春を待ちわび，発芽の準備をしている。このような寒さに耐え，今日まで生きのびてきた雑草の生態を研究し，水稲の品種改良に役だつとしたら，雑草研究こそ，冷害解決の鍵と言えるであろう。

財団法人　日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町２６番地
電話　東京（０３）５０２－４１８８（代）

昭和52年２月発行
植調第10巻第11号　　￥250（送料140）

編集人　日本植物調節剤研究協会常務理事　吉沢長人
発行人　植調編集印刷事務所　広田伸七

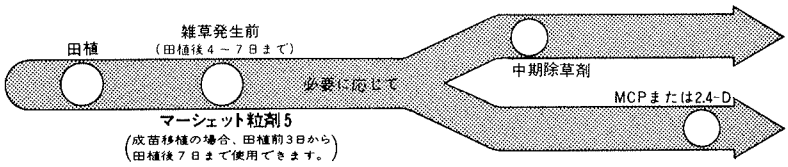
東京都港区芝愛宕町１－３　全国農村教育協会内
発行所　植調編集印刷事務所
電話　東京（03）436－3388番

水田除草は「初期」が勝負です
確かな除草剤をすすめたい…

つらい“ヒエ抜き”から皆さんを解放してあげてください！

大切な初期除草に、確かな効きめが長く続くマーシェット粒剤5が決め手になります。がんこなヒエに抜群の効果。もう、腰を曲げ曲げ“ヒエ抜き”に苦労することもありません。さらに、最近各地で問題になっているホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカなどにもよく効きます。

●土壌処理剤ですから、必ず「雑草発生前」の散布をおすすめください。



※ウリカワ、オモダカ、ヒルムシロなどの多発田では、より確実に防除するため、マーシェット粒剤5の処理後、適期にこれらの草に効く専用防除剤の処理をおすすめします。

水田初期除草剤の決定版

マーシェット™ 粒剤 5

TM米国モンサント社商標

マーシェット普及会
三　共㈱　日本農薬㈱　北興化学工業㈱

事務局
日本モンサント株式会社
〒100 東京都千代田区霞が関3-8-1　虎の門三井ビル

すばらしい効きめ

除草のきめ手

クミリードSM 粒剤

強力水田中期除草剤

◉ノビエ・コナギ・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ・ウリカワの除草に適します。
◉ウキクサ・モ類に有効で水田をきれいにします。
◉処理適期の幅が広く効力が長期間持続します。
◉普通移植、稚苗移植水稲に使用できます。
◉初期除草剤との体系処理をすれば、一層安全確実です。
◉人畜、魚介類に高い安全性があります。

使用薬量：10アール当り3～4kg(壌土～埴土)
使用時期：普通移植水稲＝田植後10～20日
稚苗移植水稲＝田植後15～20日

定評の姉妹品
★サターンS粒剤
★サターンM粒剤
も……どうぞ。

取扱い
農協・県経済連・全農

自然に学び自然を守る
クミアイ化学

お問合わせは　東京都台東区池之端1-4-26

期待に応えて新登場!!

多年生・一年生
雑草の同時防除に

マメットSM 粒剤

●ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、ヘラオモダカなど、最近急激に問題化している多年生雑草をも防除できます。
●ノビエの3～4葉期処理でも卓効があります。散布適期幅が広いので、労力配分が容易で大変省力的です。

八洲化学工業株式会社
東京都中央区日本橋本町1-6(大和ビル)

三笠化学工業株式会社
福岡市中央区天神4－9－1